

**PC 300 PL (6562)**

SA88-5934-00  
(英文原典 : V84H-0357-00)

**オプション・ガイド**



**PC 300 PL (6562)**

SA88-5934-00  
(英文原典 : V84H-0357-00)

**オプション・ガイド**

— お願い —

本書をお読みになり、本書がサポートする製品をご使用になる前に、必ず 76ページの付録C、『特記事項』をお読みください。

## 第 1 版 (1997 年 6 月)

本書において、日本では発表されていないIBM製品（機械およびプログラム）、プログラミング、およびサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、IBMがこのようなIBM製品、プログラミング、およびサービスを、必ずしも日本で発表する意図であることを示すものではありません。

原 典： 84H0357  
Personal Computer  
Installing Options in Your Personal Computer  
PC 300PL

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 1997.7

Copyright International Business Machines Corporation 1997. All rights reserved.

Translation: Copyright IBM Japan 1997

# 目次

安全に正しくお使いいただくために .....	v
絵表示について .....	v
危険/注意ラベルの表示について .....	v
レーザーの安全性について .....	x
本書について .....	xi
本書の構成 .....	xii
関連資料 .....	xiii
第1章 概要 .....	1
使用可能なオプションと機構 .....	2
必要なツール .....	3
静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い .....	4
第2章 オプションの取付けおよび取外しの準備 .....	5
ケーブルの取外しとカバーの取外し .....	5
構成部品の位置 .....	8
内部図 .....	8
入出力コネクタ .....	9
第3章 システム・ボードへのオプションの取付け/取外し .....	10
システム・ボード上のパーツの識別 .....	11
システム・メモリーの取付け/取外し .....	12
メモリー構成 .....	13
メモリー・モジュールの取付け .....	14
メモリー・モジュールの取外し .....	16
ビデオ・アップグレードの取付け .....	17
ビデオ・メモリー .....	17
マイクロプロセッサのアップグレード .....	19
第4章 アダプターおよび内蔵ドライブの取扱い .....	24
アダプターおよびライザー・カード .....	25
アダプター構成 .....	26
ブラグ・アンド・プレイ・アダプター .....	26
従来型アダプター .....	27
アダプターの取付け .....	28
サイド・カバーの取外し .....	30

フル・サイズ ISA アダプターの取付け .....	31
サイド・カバーの再取付け .....	34
アダプターの取外し .....	35
内蔵ドライブ .....	37
ドライブ仕様 .....	38
電源および信号ケーブル .....	39
ベイ 1、2、および 3 のドライブの取扱い .....	41
ドライブ・ベイでの作業 .....	42
他に必要な部品 .....	43
ドライブ・ケージを回転させる .....	43
ベイ 1、2、または 3 へのドライブの取付け .....	45
ベイ 1、2、または 3 からのドライブの取外し .....	48
ベイ・パネルまたはベゼルの取付け .....	50
ドライブ・ケージを回転して固定位置に戻す .....	51
ベイ 4 からのドライブの取外し .....	53
ベイ 4 へのドライブの取付け .....	55
第5章 機密保護オプションの取扱い .....	57
わからなくなったパスワードの消去 .....	58
ディスクット書込み禁止スイッチの設定 .....	61
第6章 取付けの完了 .....	62
カバーの再取付けとケーブルの接続 .....	63
装置構成情報の更新 .....	65
装置構成ユーティリティの開始 .....	66
設定の変更と終了 .....	68
従来型 ISA アダプターの構成 .....	69
始動装置の構成 .....	70
パスワードの設定 .....	71
付録A. 電池の交換 .....	72
付録B. 割込みリソースと DMA リソース .....	75
付録C. 特記事項 .....	76
商標 .....	76
索引 .....	77

---

## 安全に正しくお使いいただくために

本製品を安全に正しくご使用いただくために、このマニュアルには安全表示が記述されています。このマニュアルを保管して、必要に応じて参照してください。

---

### 絵表示について

本製品を正しくご使用いただき、あなたやほかの人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、このマニュアルおよび本製品への安全表示については、以下の絵表示をしています。

 <b>危険</b>	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性がある危険が存在する内容を示しています。
 <b>注意</b>	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

---

### 危険/注意ラベルの表示について

本製品の外部または内部に黄色地に黒文字で表示されているラベルがあるときは、安全上に関する危険または注意ラベルです。必ず表示の指示に従ってください。  
このマニュアルに記述されている以外に、危険または注意ラベルによる表示があるときは（たとえば製品上）、必ずそのラベルの表示による指示に従ってください。

# 危険

この機器の中にある電源のカバーは開けないでください。内部には高電圧部分があり危険です。

この機器を改造しないでください。火災、感電のおそれがあります。

表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。タコ足配線をしないでください。火災、感電のおそれがあります。

付属の電源コード以外は使用しないでください。また、付属の電源コードをほかの機器には使用しないでください。火災、感電のおそれがあります。

電源スイッチやその他の制御部分をぬらさないでください。湿気があるとこれらの部品は壊れることがあり、電気による危険を招くことがあります。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電のおそれがあります。

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重い物を載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたりすると電源コードを破損し、火災、感電のおそれがあります。

コンピューターの構成に電話ケーブル接続、通信ケーブル接続、およびテレビのアンテナ線接続が含まれている場合、付近に雷が発生しているときは、それらのケーブルに触れないようにしてください。

万一、発熱していたり、煙が出ている、へんな臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電のおそれがあります。すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから必ず抜いて、販売店または保守サービス会社にご連絡ください。

万一、異物（金属片、水、液体）が機器の内部に入ったときは、すぐに本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから必ず抜いて、販売店または保守サービス会社にご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電のおそれがあります。

## 危険

### 電池について

本製品には、システム・ボード上にリチウム電池が使用されています。

電池の交換方法や取り扱いを誤ると、発熱、発火、破裂のおそれがあります。電池の交換には、IBM部品番号33F8354の電池またはメーカー推奨の同等の電池を使用してください。

交換用電池の購入については、お買い求めの販売店または弊社の営業担当までお問い合わせください。

電池は幼児の手の届かない所に置いてください。万一、幼児が電池を飲み込んだときは、直ちに医師に相談してください。

以下の行為は絶対にしないでください。

- 水にぬらすこと
- 100°C以上の過熱や焼却
- 分解や充電
- ショート

電池を廃棄する場合、および保存する場合にはテープなどで絶縁してください。他の金属や電池と混ざると発火、破裂の原因となります。電池は地方自治体の条例、または規則に従って廃棄してください。ごみ廃棄場で処分されるごみの中に捨てないでください。

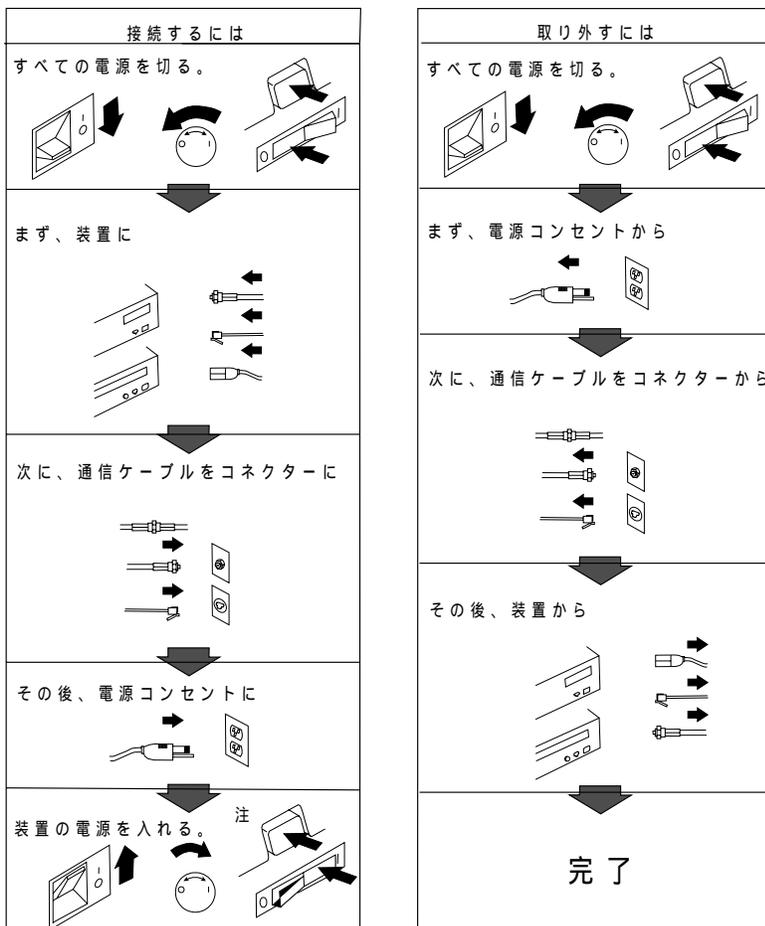
3ピン電源プラグが設置場所の接地端子付きコンセントに合う場合は、付属の接地端子付き電源プラグは使用しないで、3ピン電源プラグをそのままコンセントに差し込んでください。接地端子付き電源プラグは廃棄してください。3ピン電源プラグが設置場所のコンセントに合わない場合は、付属の接地端子付き電源プラグをお使い下さい。緑色の線はアース用です。端子の絶縁物を外して専門の電気技術者によって施行されたアース端子に接続してください。ガス管への接続およびコンセントへの差し込みは大変危険ですので絶対にしないでください。アース線をアース端子に接続することにより、安全にご使用いただけます。なお3ピン電源プラグを持つコンピュータで使用することを前提にしているオプション・アダプター・カード(例: LANアダプター・カード)は接地が必要です。

付属の接地端子付き電源プラグ以外は使用しないでください。また、付属の接地端子付き電源プラグをほかの機器には使用しないでください。火災、感電のおそれがあります。

# ⚠ 危険

ケーブル類の取り付け、取り外し順序。

電源コード、電話ケーブル、通信ケーブルからの電流は身体に危険を及ぼします。設置、移動、または製品のカバーを開けたり装置を接続したりするときには、以下のようにケーブルの接続、取り外しを行ってください。



電話ケーブル、通信ケーブルまたはテレビのアンテナ線を接続する製品は、雷の発生時にはケーブルの取り外しはしないでください。

## 注意

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。（必ずプラグを持って抜いてください。）

湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災、感電の原因となることがあります。

この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

本体を持ち上げたり、配置を変えたり、移動したりするときは、思わぬ怪我をしないように注意してください。重すぎるときは、ほかの人の応援を頼んでください。

長期間使用しないときは、電源プラグをACコンセントから抜いておいてください。

## レーザーの安全性について

IBM パーソナル・コンピューターの一部のモデルには、CD-ROM ドライブが搭載されています。CD-ROM ドライブは、オプションとしても別売されています。CD-ROM ドライブは、レーザーを使用している製品です。CD-ROM ドライブは Class 1 レーザー製品について規定している米国の Department of Health and Services 21 Code of Federal Regulations (DHHS 21 CFR) Subchapter J (保健福祉省連邦法規則 21 副章 j) に準拠しています。それ以外にもドライブは Class 1 レーザー製品の規格である国際電気標準会議 (IEC) 825 および CENELEC EN 60 825 に準拠しています。

CD-ROM ドライブがインストールされている場合は、以下のことに注意してください。

### 注意

本書で指定された内容以外の制御、調整または手順を行った場合、レーザーの放射の危機があります。

CD-ROM ドライブのカバーを開けると、危険なレーザーを浴びる可能性があります。CD-ROM ドライブの内部には、修理の対象となる部品はありません。カバーを開けないでください。

一部の CD-ROM ドライブは、CLASS 3A または CLASS 3B のレーザー・ダイオードを使用しています。次の点に注意してください。

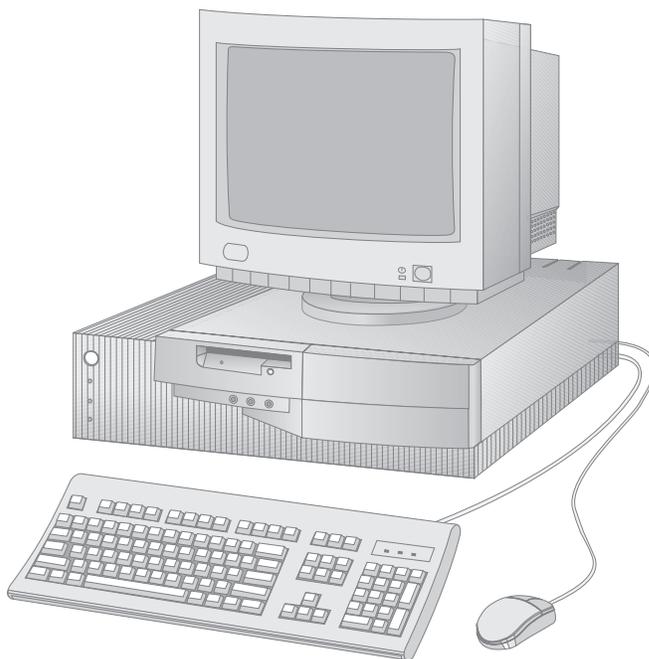
### 危険

CD-ROM ドライブのカバーを開けるとレーザーが放射されます。光線をみつめたり、光学器械を使って直接見たりしないでください。また、光線を直接浴びないようにしてください。

---

## 本書について

このたびは、IBM パーソナル・コンピューターをお買い上げいただきありがとうございました。



本書では、ほとんどのオプションの取付け、取外し、および交換の手順を説明しています。また、コンピューターに追加するオプションの選定に役立つ情報も記載しています。

注： 本書に示されている図は、実際にお手元にあるハードウェアと多少異なる場合があります。

---

## 本書の構成

本書は、次の章と付録で構成されています。

第1章、『概要』は、コンピューターのオプションおよび機構について紹介しています。安全に関する注意や取扱いのテクニックについて、オプションの取付けや取外しに必要なツールと合わせて説明してあります。

第2章、『オプションの取付けおよび取外しの準備』は、コンピューターのカバーとケーブルの取外し手順と、作業を行うのに使用する構成部品の位置の確認方法について説明しています。

第3章、『システム・ボードへのオプションの取付け/取外し』では、システム・ボード上のオプションの位置確認、アクセス、および扱い方法について説明します。

第4章、『アダプターおよび内蔵ドライブの取扱い』では、アダプターおよびドライバーの取付けおよび取外し方法について説明します。

第5章、『機密保護オプションの取扱い』は、安全保護 U ボルトなどの機能や分からなくなったパスワードの消去について説明します。ディスクットの書込み禁止についても、記載してあります。

第6章、『取付けの完了』では、オプションの取付けが済んだ後でコンピューターを組み立て直す手順について記載しています。装置構成ユーティリティーの使用法についても説明しています。

付録A、『電池の交換』は、バックアップ電池の交換方法および電池の取扱いと廃棄に関する注意事項を記載しています。

付録B、『割込みリソースと DMA リソース』では、本製品の省略時割込みリソースおよびダイレクト・メモリー・アクセス (DMA) リソースを記載しています。

付録C、『特記事項』では、IBM の特記事項および商標を記載しています。

---

## 関連資料

本書だけでなく、以下の資料にも、本製品についての情報が記載されています。

### *セットアップ・ガイド*

このマニュアルには、本製品のセットアップ手順が記載されています。

### *ユーザーズ・ガイド (SA88-5932)*

この資料には以下が含まれています。

- コンピューターの構成、操作、および保守に関する説明。
- コンピューターに生じた問題の診断および解決についての情報。

### *解説書 (SA88-5931)*

このオンライン・マニュアル (オペレーティング・システム初期導入済みモデルにのみ付属しています) には、パーソナル・コンピューターの使用法に関する一般情報および本製品の特定の機構に関する詳細情報が記載されています。この資料の印刷されたものを購入する場合は、別冊の「IBM サービスのご案内」の「マニュアルのご注文」を参照してください。

### *初期導入済みソフトウェアについて*

このマニュアル (オペレーティング・システム初期導入済みモデルにのみ付属しています) には、その初期導入済みソフトウェア・パッケージに関する情報およびサポート CD の使用方法が記載されています。

下記のマニュアルには、本製品に関する詳細な情報が記載されています。

### *保守マニュアル (SA88-5727)*

この別売りのマニュアルには、熟練した保守技術員のための情報が記載されています。購入する場合は、別冊の「IBM サービスのご案内」の「マニュアルのご注文」を参照してください。



## 第1章 概要

本製品に別売りのオプションを取り付けることにより、簡単に機能を拡張できます。オプションや機構の取外し、取付け、交換方法についても、本書で説明しています。オプションを取り付ける際は、本書の手順と合わせて、オプションに付属のマニュアルもお読みになってください。すでに取り付けているオプションがある場合には、詳しい手順を読まなくとも、ある程度の作業を実行できることもあります。

この章では、本書で説明しているオプションや機構の概要を記載しています。また、必要なツール、電気に関する安全のための注意、および静電気の影響を受けやすい装置に関する重要な情報も記載されています。

### 重要

オプションの取付けまたは取外しを行う前に、この章に記載されている安全上の注意や構成部品の取扱いの指示をよく理解しておいてください。これらの注意や指針は、安全に作業を進める上で役立ちます。

本製品の用法、操作方法、保守に関する一般的な情報については、*ユーザズ・ガイド*を参照してください。*ユーザズ・ガイド*には、問題を解決したり修理サービスを受ける際に役立つ情報も含まれています。

---

## 使用可能なオプションと機構

本書で説明している使用可能なオプションと機構のいくつかを、以下に示します。

### システム・ボード構成部品

- システム・メモリー。デュアル・インライン・メモリー・モジュール(DIMM) と呼ばれる。
- ディスケット書込み禁止用スイッチ
- 分からなくなったパスワードを消去するためのジャンパー
- 電池

### アダプター

- ISA アダプター
- PCI アダプター

### 内蔵ドライブ

その他のオプションも弊社から入手可能です。その中のひとつとして、フロア・スタンド、ボトム・カバー、およびリア・カバーを含むオプションがあります。これらのオプションは本書では扱われていませんが、詳細な取付け説明が付属しています。

以下は、本製品で使用可能な機構の一部です。詳細については、オプションのハードウェアに付属の資料を参照してください。

本製品は *Wake on LAN* を使用してリモートから始動可能で、これはシステム・ボードに組み込まれているイーサネットによってサポートされています。*Wake on LAN* に関する詳細については、*ユーザーズ・ガイド* を参照してください。

電源管理に役立てるためモデム・オプションを追加し、モデムによってリングが検出されたときにコンピューターを始動させることができます。装置構成ユーティリティーを使ってその設定をすることができます。外部モデム・オプションの場合は、「モデムの着信 (シリアル・ポート A)」を、内蔵モデム・オプションの場合は、「モデムの着信 (内蔵モデム)」を、それぞれ「する」に設定します。詳細については、*ユーザーズ・ガイド* を参照してください。

弊社はお客様のコンピューターのドライブ、ケーブルならびにその他のオプションの選択を援助いたします。使用可能なオプションに関する最新情報については、お買上げの販売店または IBM 特約店にお問い合わせください。

IBM はワールド・ワイド・ウェブ (WWW) 上にホームページを開設しており、IBM 製品、サービスに関する情報、および最新技術情報の入手、ならびに更新されたデバイス・ドライバーなどのダウンロードを行うことができます。それらのホームページの一部は以下のとおりです。

<http://www.ibm.co.jp>

IBM ホームページ

<http://www.ibm.co.jp/pc>

IBM パーソナル・コンピューター・ホームページ

<http://www.ibm.co.jp/pc/desktop>

IBM PC/IntelliStation ホームページ

<http://www.ibm.co.jp/pc/pcserver>

IBM PC Server ホームページ

<http://www.ibm.co.jp/pc/option>

IBM PC 周辺機器ホームページ

<http://www.ibm.co.jp/pc/thinkpad>

IBM Thinkpad ホームページ

---

## 必要なツール

本製品にオプションを取り付けたり、取り外したりする際には、マイナスのドライバーが必要です。それ以外の必要なツールは、特定のオプションにより異なるため、各オプションに付属の説明書に記載されています。

---

## 静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い

カーペット敷きの床を歩いているときに何かに接触して小さな電気ショックを受けた経験はありませんか。これが静電気です。静気は人体には無害ですが、本製品の構成部品やオプションには損傷を与える場合があります。

### 重要

オプションを取り付ける際には、指示があるまでオプションが入っている静電気防止袋を**開けない**でください。

静電気による損傷を回避するために、オプションやその他の構成部品を取り扱う際には、以下の注意を守ってください。

身体の動きを最小限にとどめます。動作が多いと、周囲に静電気が帯電する可能性があります。

構成部品は常に注意して取り扱います。アダプターやメモリー・モジュールを扱うときは、端を持ってください。回路の露出部には決して手を触れないでください。

他の人が構成部品に触れないようにします。

新たにオプションを取り付ける際は、オプションが入っている静電気防止袋を、本体の金属製拡張スロット・カバーかその他の塗装されていない金属面に2秒間以上接触させます。これによって、パッケージや人体の静電気を少なくすることができます。

オプションの取外しと取付けを行う際には、オプションはできるだけ下に置かずに直接本体に取り付けます。やむをえずオプションを他の場所に置かなければいけない場合は、そのオプションが入っていた静電気防止袋を凹凸のない平らな面に置き、その上にオプションを置くようしてください。

本体のカバーやその他の金属面の上にオプションを置かないようにします。

## 第2章 オプションの取付けおよび取外しの準備

この章では、取付けまたは取外しを行いたいオプションの位置の確認手順を記載しています。

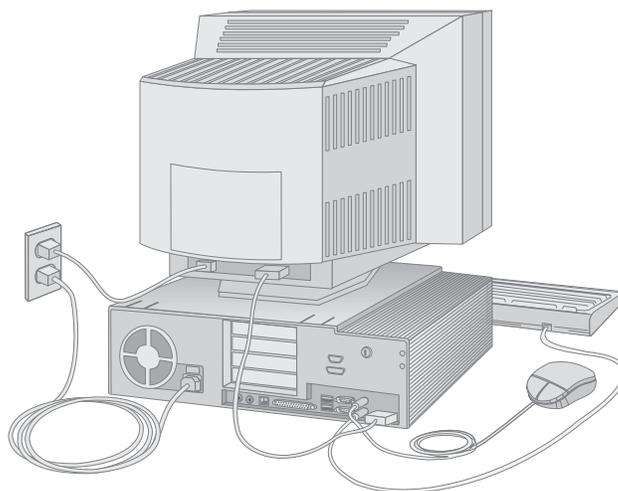
### ケーブルの取外しとカバーの取外し

作業を始める前に

vページの『安全に正しくお使いいただくために』および4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

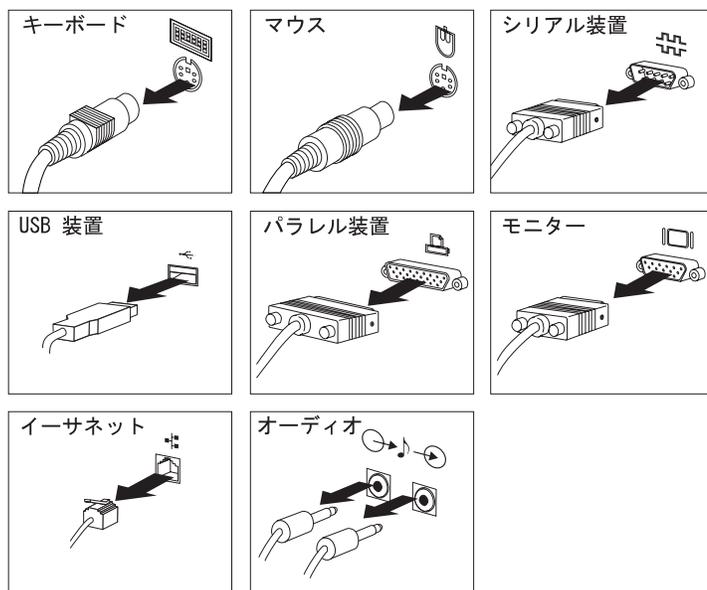
ドライブからあらゆる媒体（ディスケット、コンパクト・ディスク、テープ）を取り出し、次に、すべての接続装置とコンピューターの電源をオフにします。

- 1 コンピューター本体に接続しているケーブルをすべて取り外します。これには、電源コード、入出力 (I/O) ケーブルおよびコンピューターに接続されるその他のケーブルが含まれます。以下の図は、コンピューターの背部を示しています。

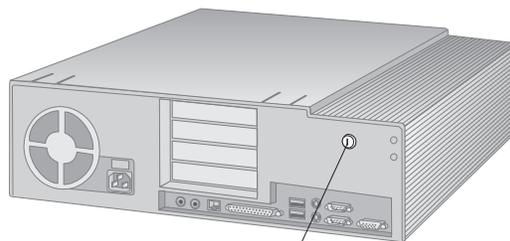


注: ご使用のコンピューターは上に示されているものとは異なることもあります。背部のコネクターに関する詳しいことは、セットアップ・ガイドを参照してください。

注: 汎用シリアル・バス (USB) を含む、ポートに関する詳細については、*解説書* を参照してください。<sup>1</sup>



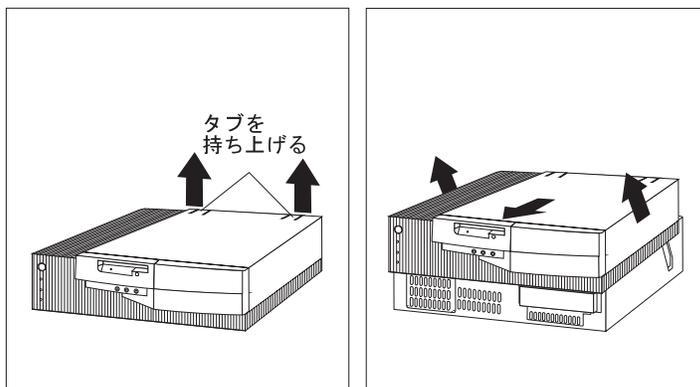
**2** 必要な場合には、コンピューター・カバーのロックを解除します。(カバー・ロックはコンピューター背部にあります。)



カバー・ロック

<sup>1</sup> *解説書* に関する詳しいことは、xiiiページの『関連資料』を参照してください。

- 3** コンピューター・カバーの背部にあるタブを見つけてそれらを持ち上げます。次にカバーを少し前方にスライドさせてフロント・エッジを解放、カバーを持ち上げます。



- 4** ご使用のコンピューターにおいて、シャシー侵入検出スイッチが使用可能に設定されている場合は、カバーを開けた後に管理者パスワードを入力する必要があります。シャシー侵入検出装置に関しては、*ユーザーズ・ガイド*の"シャシー侵入検出装置"を参照してください。

## 構成部品の位置

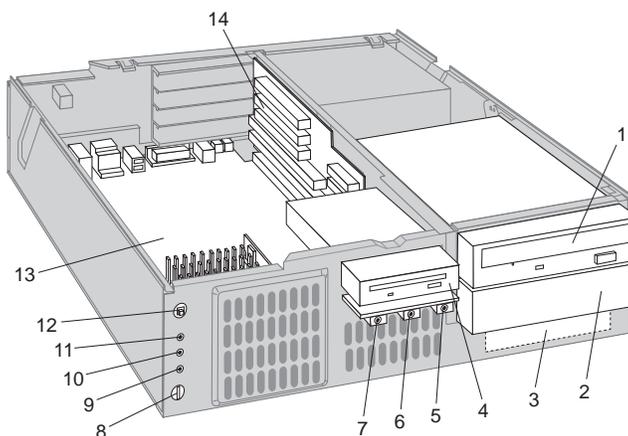
以下の情報は、構成部品の位置を確認したり、オプションを取り付けたり、入出力装置を接続する際に参照する上で役に立ちます。

### 内部図

以下の図は、正面から見たときのコンピューターの内部を示しています。カバーの取外し方については、5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照してください。

注： 以下の図は単に参照用として描かれています。

- 1 ベイ 1
- 2 ベイ 2
- 3 ベイ 3
- 4 ベイ 4
- 5 音量調節つまみ
- 6 ヘッドホン・ジャック
- 7 マイクロホン・ジャック
- 8 シャシー侵入検出スイッチ
- 9 LAN 状況ランプ
- 10 ハードディスク・ドライブ・ランプ
- 11 電源ランプ
- 12 電源スイッチ
- 13 システム・ボード
- 14 ライザー・カード拡張スロット



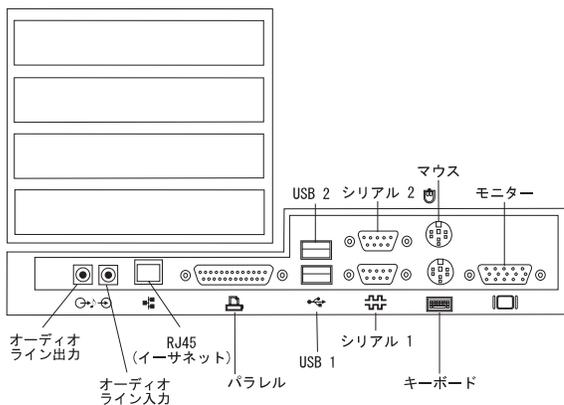
ご使用のコンピューターには、ベイ 4 にディスクット・ドライブが装備され、ベイ 3 にはハード・ディスクが装備されています。CD-ROM ドライブが標準装備されている場合には、ベイ 1 に取り付けられています。

ドライブ・ベイに関する詳細については、37ページの『内蔵ドライブ』を参照してください。

## 入出力コネクタ

入出力 (I/O) コネクタは、コンピューター から情報を出し入れするためのポートを提供しています。コンピューターには、モニター、キーボード、マウス、プリンターを含め、各種の入出力装置を接続できます。ポートおよびそれぞれ特定のテクノロジーに関する詳細については解説書を参照してください。

コンピューター の背部には、I/O コネクタが装備されています。



## 第3章 システム・ボードへのオプションの取付け/取外し

本章は、本書で解説されているシステム・ボード・オプションに関する説明を行います。

本章の情報は、システム・ボード上の部品を識別するのに役立ちます。また、システム・ボード上へのオプションの設置手順も提供されています。たとえば、システム・メモリーを取り付けるためにはシステム・ボードで作業を行う必要があります。

### 作業を始める前に

vページの『安全に正しくお使いいただくために』および4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

取付けまたは交換を行うオプションに付属している説明書をお読みください。

コンピューターおよび接続されている他のすべての装置の電源をオフにしてください。

すべての外部ケーブルおよび電源コードを取り外してください。

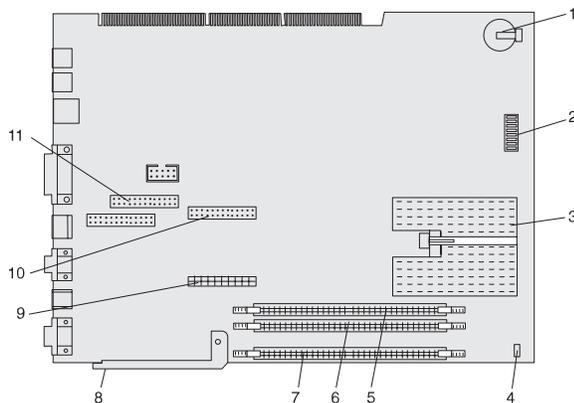
本章は、システム・ボード構成部品 (具体的にはシステム・メモリーおよびマイクロプロセッサ) の取付け、取外し、および交換に関する説明も行います。他のシステム・ボード構成部品については、該当するセクションを参照してください。

## システム・ボード上のパーツの識別

システム・ボードは、プレーナーまたはマザーボードともいいますが、コンピューターの主要部品です。このボードは、基本的なコンピューター機能を提供し、さまざまな装置をサポートします。

コンピューターへのハードウェアの取付け、取外し、または交換を行う場合は、システム・ボードのレイアウトを知っておく必要があります。次の図には、コンピューターのシステム・ボードのレイアウトが示されています。番号の付けられた引き出し線は、本書で解説されている各構成部品を示しています。

- 1 電池
- 2 ロッカー・スイッチ
- 3 マイクロプロセッサ・コネクタ
- 4 CMOS (パスワード) クリアー・ジャンパー
- 5 メモリー・モジュール・コネクタ 0
- 6 メモリー・モジュール・コネクタ 1
- 7 メモリー・モジュール・コネクタ 2
- 8 システム・ボード・ラッチ
- 9 ビデオ・メモリー・コネクタ
- 10 ビデオ・メモリー・コネクタ
- 11 VESA フィーチャー・コネクタ



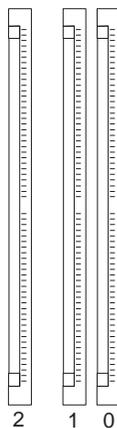
注: システム・ボードの図および追加情報は、コンピューター カバーの裏側にあるラベルに記載されています。

## システム・メモリーの取付け/取外し

コンピューターにメモリーを増設してシステムのパフォーマンスを上げることができます。このコンピューターは、システム・メモリー・モジュールを取り付けるためのコネクタを3つ持ちます。コンピューターがサポートしているシステム・メモリーの最大容量は、384 MB です。

注:

コンピューター 内部のメモリー・コネクタの位置に関しては、11ページの『システム・ボード上のパーツの識別』を参照してください。



コンピューターが使用するメモリー・モジュールは、デュアル・インライン・メモリー・モジュール (DIMM) です。ご使用のコンピューターに標準装備の DIMM は、パリティなし (NP) EDO (拡張データ・アウト) モジュールです。

DIMM の増設または交換を行うときは、以下の規則にしたがってください。

3.3 ボルトの、バッファなし DIMM のみを使用します。

各メモリー・コネクタは最大 128 MB の EDO メモリーをサポートします。

60 ns EDO DIMM (パリティなし) がサポートされています。

## メモリー構成

メモリーの追加または取外しを行うときは、16, 32, 64, または 128 MB の任意のサイズの DIMM の組合せを使用することができます。守らなければならない基本的規則は、*Mem 0* から始まって各システム・メモリー・コネクタを順番に埋めていくことです。

以下の表はご使用のコンピューターに推奨されるメモリー構成を示しています。この表およびその他の情報がコンピューターカバーの裏側にもあります。前述の規則にしたがっていれば、以下の表以外の構成も可能です。

注: 以下の表の値は、メガバイト (MB) で表わされています。

合計メモリー (MB)	Mem 0	Mem 1	Mem 2
16	16	0	0
32	32	0	0
32	16	16	0
48	16	16	16
48	16	32	0
64	32	16	16
64	32	32	0
80	32	32	16
96	32	32	32
96	32	64	0
112	32	64	16
128	32	64	32
160	32	128	0
160	32	64	64
176	32	128	16
192	32	128	32
224	32	128	64
288	32	128	128
384	128	128	128

## メモリー・モジュールの取付け

### 作業を始める前に

vページの『安全に正しくお使いいただくために』および4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

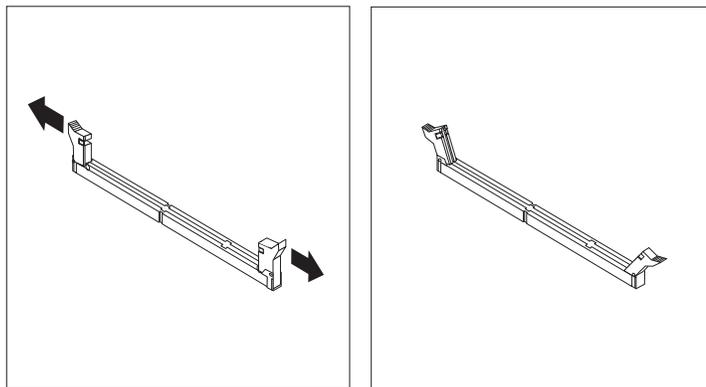
増設するシステム・メモリー・オプションに付属の説明書をお読みください。

コンピューターおよび接続されている他のすべての装置の電源をオフにしてください。

コンピューターに接続されているケーブルをすべて取り外して、コンピューターのカバーを開けてください(5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。

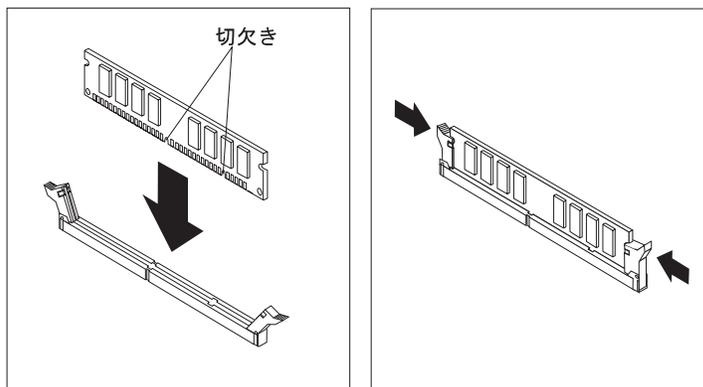
注: メモリー構成に関しては、13ページの表1を参照してください。

- 1 以下の2番目の図に示されているとおり、必ず、留めクリップがオープンになるようにします。留めクリップがコネクタに対して垂直になっている場合には、オープンの位置になるまで、外側に押し開いてください。



- 2 メモリー・モジュールが入っている静電気防止袋をコンピューター本体の塗装されていない金属面に接触させてから、モジュールを取り出します。
- 3 モジュールの下部の端にある切欠きがコネクタの位置に正しく合うように、コネクタの上方でモジュールの位置を定めます。

- 4** 留めクリップが飛び出して、モジュールの両端にぴったりはまるまで、モジュールをまっすぐコネクタにはめ込みます。(このとき、メモリー・モジュールがコネクタから浮いていないことを確認してください。)



- 5** 他のメモリー・モジュールの取り付けも、ステップ 1~4 を繰り返します。
- 6** ユーザーズ・ガイドの「装置に関する記録用紙」に、この取付けたメモリーに関する情報を記録してください。

次の手順

別のオプションの作業を行う場合は、該当する項に進みます。  
取付けを完了するには、62ページの第6章、『取付けの完了』に進みます。

## メモリー・モジュールの取外し

作業を始める前に

vページの『安全に正しくお使いいただくために』および4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

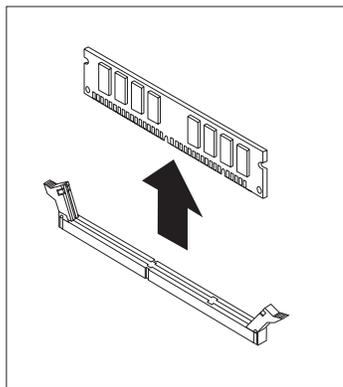
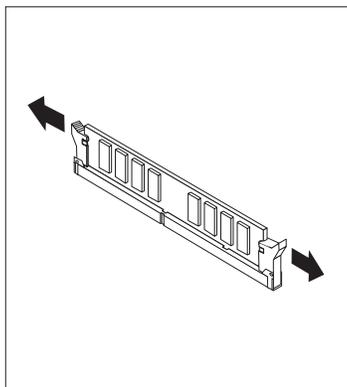
コンピューターおよび接続されている他のすべての装置の電源をオフにしてください。

コンピューターに接続されているケーブルをすべて取り外して、コンピューターのカバーを開けてください(5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。

- 1 メモリー・モジュール・コネクタの両端の留めクリップを、モジュールが緩くなるまで外側に押し開きます。

注: 留めクリップを強く押しすぎないように注意してください。モジュールが突然コネクタから飛び出すことがあります。

- 2 メモリー・モジュールをコネクタから取り上げます。



- 3 モジュールを静電気防止袋に保管します。

次の手順

別のオプションの作業を行う場合は、該当する項に進みます。

取付けを完了するには、62ページの第6章、『取付けの完了』に進みます。

## ビデオ・アップグレードの取付け

お使いのコンピューターには、ビデオ・メモリー・オプションを取り付けることができます。

### ビデオ・メモリー

システム・ボードがサポートしているビデオ・メモリーの最大容量は、4 MB です。コンピューターにはすでに 2 MB のビデオ・メモリーが取り付けられており、さらに 2 MB のメモリーを追加することによってシステム・パフォーマンスをあげることが可能です。

#### ヒント

コンピューターに取り付けられたビデオ・メモリーの容量を知るには、以下の手順を実行します。

1. コンピューターの電源をオンにし、装置構成ユーティリティを始動します (66ページの『装置構成ユーティリティの開始』を参照)。
2. デバイスと I/O ポートを選択します。
3. ビデオの設定を選択します。
4. ビデオ・メモリーの欄を見てください。値が 2048 KB の場合は、お使いのコンピューターは2 MB のビデオ・メモリーを持ち、アップグレードが可能です。値が 4096 KB の場合は、システム・ボードにはすでに最大容量のビデオ・メモリーが装備されており、アップグレードは必要ありません。
5. 装置構成ユーティリティ プログラムを終了します。

#### 作業を始める前に

vページの『安全に正しくお使いいただくために』および 4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

本体およびすべての接続されている装置の電源をオフにしてください。

コンピューターに接続されているすべてのケーブルを取り外し、コンピューター・カバーを取り外します (5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。

システム・ボード上のビデオ・メモリー・コネクターの位置を確認してください。11ページの『システム・ボード上のパーツの識別』を参照してください。

ビデオ・メモリー・コネクターを扱うのにアダプターが邪魔になる場合には、アダプターを取り外してください。

- 1** ビデオ・メモリー・モジュールが入っている静電気防止袋をコンピューター本体の塗装されていない 金属面に接触させてから、モジュールを袋から取り出します。オプション付属の説明書に従ってください。
- 2** ユーザーズ・ガイドの「装置に関する記録用紙」に、この取付けについて記録してください。

— 次の手順 —

アダプターの取外し後に再度取り付けたい場合には、28ページの『アダプターの取付け』に進みます。

別のオプションの作業を行う場合は、該当する項に進みます。

取付けを完了するには、62ページの第6章、『取付けの完了』に進みます。

## マイクロプロセッサのアップグレード

本製品は、システム・ボード上にIntel Pentium マイクロプロセッサまたは Intel MMX テクノロジ Pentium マイクロプロセッサが取り付けられています。(どちらのマイクロプロセッサがコンピューターに導入されているかは、装置構成ユーティリティを参照してください。)本製品で使用できるマイクロプロセッサのアップグレードに関する最新情報については、お買上げの販売店または IBM 特約店にお問い合わせください。マイクロプロセッサをアップグレードする場合は、本書に記載されている手順と合わせて、アップグレードに付属してくる説明書を使用してください。

### 注意

マイクロプロセッサおよびヒート・シンクは、コンピューターが稼動中は熱くなります。コンピューターがオンになっている場合には、やけどを防ぐために、マイクロプロセッサとヒート・シンクを **10** 分間冷やしてから、この手順を続行してください。

#### 作業を始める前に

vページの『安全に正しくお使いいただくために』および4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

新しいマイクロプロセッサに付属の説明書をお読みください。

コンピューターの電源をオフにしてください。

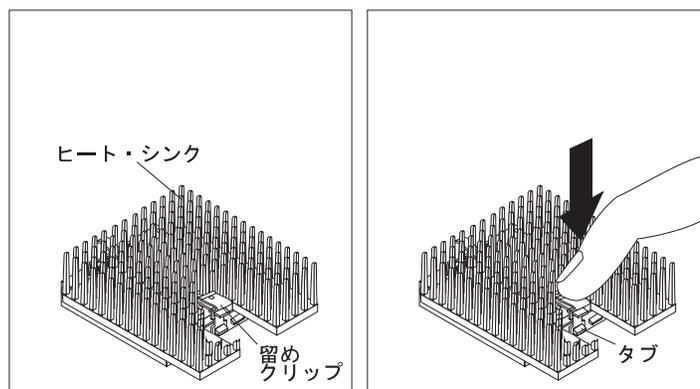
コンピューターに接続されているケーブルをすべて取り外して、コンピューターのカバーを開けてください(5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。

## ⚠ 注意

ヒート・シンクおよびマイクロプロセッサを取り外すときは、システム・ボードの構成部品に傷を付けないように注意してください。また、留めクリップにはテンションがかかっており、取外し中に保持していないと突然外れることがあります。

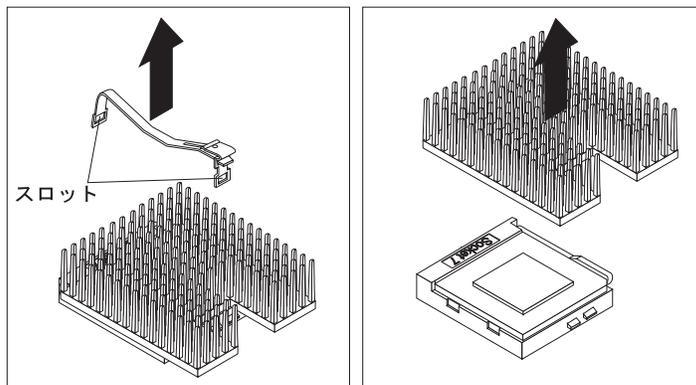
- 1 システム・ボードのマイクロプロセッサの位置を確認します(11ページの『システム・ボード上のパーツの識別』を参照)。
- 2 留めクリップ・フックの両端のスロットが、マイクロプロセッサ・コネクタのタブに引っ掛かっています。クリップの頂部は、取り外しやすく"ループ"状になっています。

留めクリップを取り外すには、ループを押し下げると同時にスロットから最も近いタブを外し、次に反対側のタブを外します。

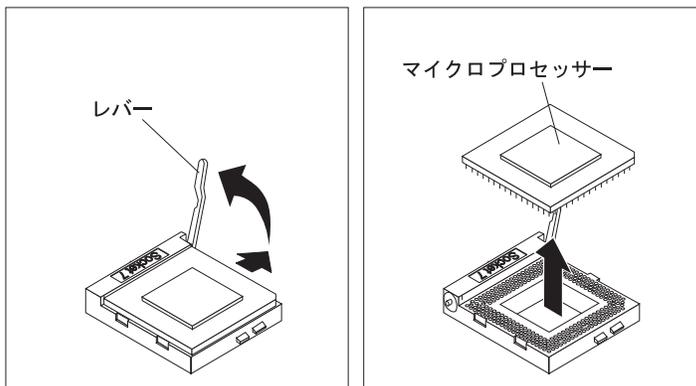


注: ヒート・シンクをマイクロプロセッサに密着させるために、熱伝導グリースが使われています。このグリースが皮膚に付着しないよう注意してください。このグリースが皮膚または衣服に付着した場合は、せっけんと水で付着した部分を洗浄してください。

**3** 留めクリップおよびヒート・シンクを取り外します。



**4** マイクロプロセッサ・コネクタ側のレバーを外し、一杯まで持ち上げます。こうすると、マイクロプロセッサが解放されます。マイクロプロセッサをソケットから持ち上げます。



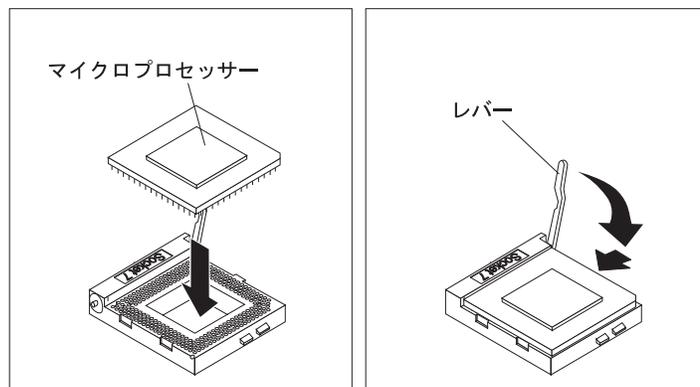
**5** 取り外したマイクロプロセッサを静電気防止袋に保管します。

**6** 新しいマイクロプロセッサが入っている静電気防止袋を コンピューター の塗装されていない金属面に接触させてから、新しいマイクロプロセッサを袋から取り出します。

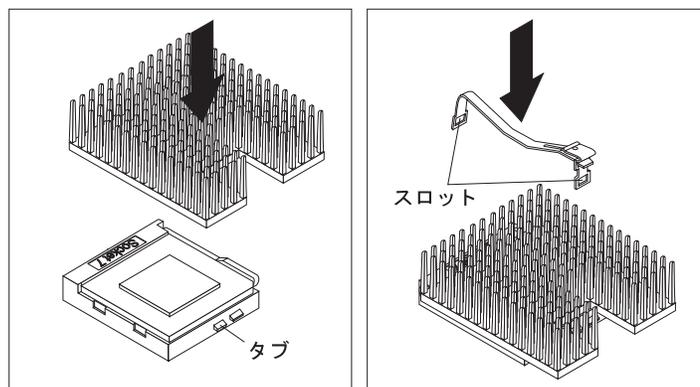
- 7** 新しいマイクロプロセッサのピンをソケットの位置に合わせ、所定の位置に収まるまでマイクロプロセッサを差し込みます。

注: マイクロプロセッサをソケットに差し込む際には注意してください。マイクロプロセッサのピンは一方方向にしか接続できません。

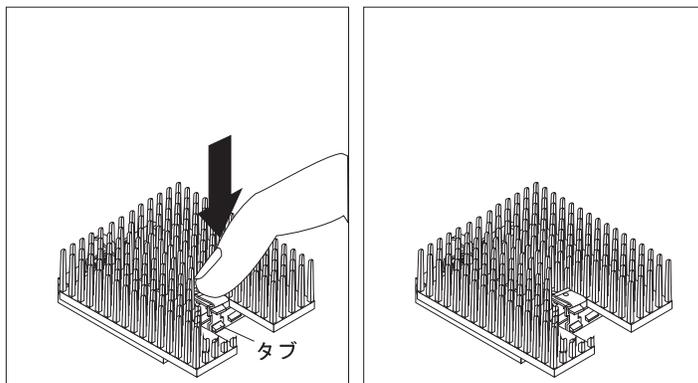
レバーを押し下げて、マイクロプロセッサを所定の位置にロックします。



- 8** 熱伝導グリースをヒート・シンクに塗布し、ヒート・シンクとクリップを取り付けます。



**9** ループを押し下げ、クリップをコネクター上のタブに再び掛けます。



次の手順

別のオプションの作業を行う場合は、該当する項に進みます。

取り付けを完了するには、62ページの第6章、『取付けの完了』に進みます。

## 第4章 アダプターおよび内蔵ドライブの取扱い

この章では、アダプターおよび内蔵ドライブの取付けおよび取外しについて説明します。

アダプターの取付けまたは取外しの際には、発生するリソースの競合を解決することが重要です。たとえば、ISA の従来型アダプターを取り付ける場合には、アダプター上の各種スイッチを設定したり、装置構成ユーティリティを使用して、アダプターを手動で設定する必要があります。

現在では、多くのアダプターがプラグ・アンド・プレイ 技術を採用しており、本製品がアダプターを自動的に設定して、必要なリソースを利用可能にするようになっています。アダプターに付属している説明書を参照して、プラグ・アンド・プレイかどうかを判別してください。詳細については、26ページの『アダプター構成』を参照してください。

内蔵ドライブを取り付けるときは、どんな種類のドライブを各ベイに取り付けることができるか、また各ドライブ・ベイの高さ制限に注意してください。また、内蔵ドライブ・ケーブルを、導入されるドライブに正しく接続してください。詳細については、37ページの『内蔵ドライブ』を参照してください。

### 作業を始める前に

vページの『安全に正しくお使いいただくために』および4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取扱い』をお読みください。

取付けまたは交換を行うオプションに付属している説明書をお読みください。

コンピューターおよび接続されている他のすべての装置の電源をオフにしてください。

コンピューターに接続されているケーブルをすべて取り外して、コンピューターのカバーを開けてください(5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。

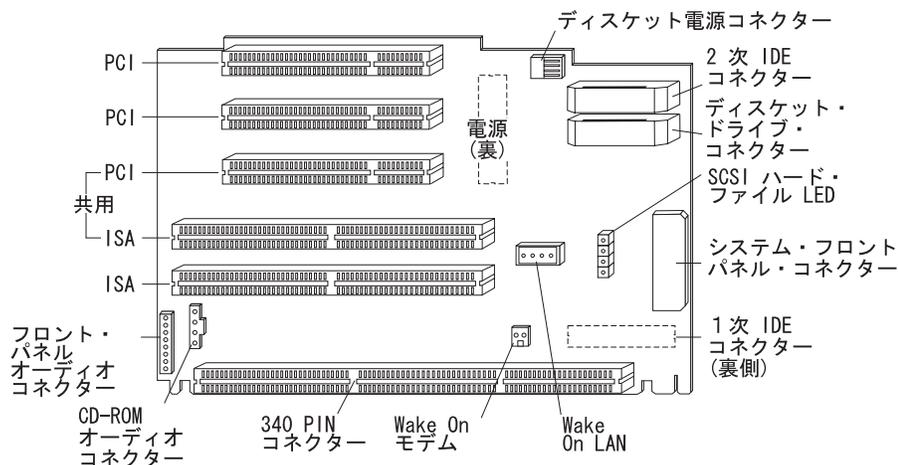
## アダプターおよびライザー・カード

本製品は、拡張スロットのためにライザー・カードを使用しています。ライザー・カードには、ISA バスと PCI バスにアダプターを接続する拡張スロットが組み込まれています。

さまざまなアダプターをライザー・カードの拡張スロットに取り付けることができます。ライザー・カードの位置については、8ページの『構成部品の位置』を参照してください。

本製品のライザー・カードは、ISA スロット 2 つと PCI スロット を 3 つ 持ちます。上から 3 番目の PCI コネクターは、そのすぐ下の ISA コネクターとスロットを共用しています。他のスロットは、ISA バス専用または PCI バス専用です。共用スロットにはアダプターを 1 つだけ取り付けることができます。

以下の図はライザー・カード上の拡張スロットを示しています。



注: ディスケットおよび IDE ドライブ・コネクターもライザー・カード上にあります。オプションのドライブを取り付けるときは、この図を参照してください。

---

## アダプター構成

アダプターの構成の際には、アダプターに付属している資料とともに、下記の情報も参照してください。

### プラグ・アンド・プレイ・アダプター

本製品では、ISA アダプターを構成する新しい方式が採用されています。プラグ・アンド・プレイは、コンピューターの拡張を容易にする構成方法です。プラグ・アンド・プレイのサポート機能は、コンピューターのシステム・ボードに内蔵されています。

アダプターがプラグ・アンド・プレイである場合には、アダプター上に設定するスイッチやジャンパーはありません。プラグ・アンド・プレイ・アダプターのメモリーには、アダプターの構成情報が組み込まれており、始動時に、コンピューターに導入情報を提供します。プラグ・アンド・プレイ・アダプターの取付けまたは取外しの際に、プラグ・アンド・プレイ技術をサポートする基本入出力システム (BIOS) により、この情報が解釈されます。必要なリソースが利用可能な場合には、BIOS ソフトウェアは、他の装置によってすでに使用中のリソースを避けて、アダプターを自動的に構成します。

PCI スロット用に設計されたほとんどのアダプターはプラグ・アンド・プレイ対応です。多くの ISA アダプターはプラグ・アンド・プレイ対応ではありません。

注:

1. プラグ・アンド・プレイ・アダプターを取り付けた後にリソースの競合が発生した場合には、アダプターのデフォルトのリソース設定を変更する必要があります。詳細については、アダプターに付属の資料を参照してください。
2. リソースの競合によるエラー・メッセージの詳細については、*ユーザーズ・ガイド* を参照してください。

## 従来型アダプター

プラグ・アンド・プレイ対応でないアダプターは**従来型アダプター**と呼ばれます。従来型アダプターを取り付ける場合には、アダプター上のスイッチを設定したり、装置構成ユーティリティーを使用してシステム・リソースを割り振ることによって、アダプターを手動で構成する必要があります。

装置構成ユーティリティーでは、ISA リソース画面で、アダプターが使用するリソースを割り振ります。

- メモリー・リソース
- I/O ポート・リソース
- DMA リソース
- 割込みリソース

画面上で、取り付けるアダプターが利用可能なリソースを選択することができます。ISA 従来型アダプターが使用しないリソースは、[使用可]とリストされます。新しく取り付ける従来型の ISA アダプターが使用するリソースを[ISA で使用中]に設定しなければなりません。これによって、ソフトウェアが、これらのシステム・リソースを従来型アダプターに使用することができるようになり、BIOS がシステムまたはその他のプラグ・アンド・プレイ・アダプターのためにこれらのリソースを使用することを妨げます。

取り付けるアダプターのためにシステム・リソースを変更したように、従来型の ISA アダプターを取り外す際にもリソースを変更しなければなりません。従来型のアダプターを取り外す場合には、使用していたリソースの設定を[使用可]に戻してください。これによって、これらのリソースを、プラグ・アンド・プレイ・ソフトウェアが将来の構成で自動的に使用したり、手動の構成時に使用できるようになります。

注: 必要なシステム・リソースの詳細については、アダプターに付属の資料を参照してください。従来型アダプターの中には、アダプターを拡張スロットに装着する前に、使用するリソースを設定しなければならないアダプターがあります。

ISA 従来型アダプターの構成に関しては、69ページの『従来型 ISA アダプターの構成』または *ユーザーズ・ガイド* を参照してください。リソースの競合によるエラー・メッセージの詳細については、*ユーザーズ・ガイド* を参照してください。

## アダプターの取付け

作業を始める前に

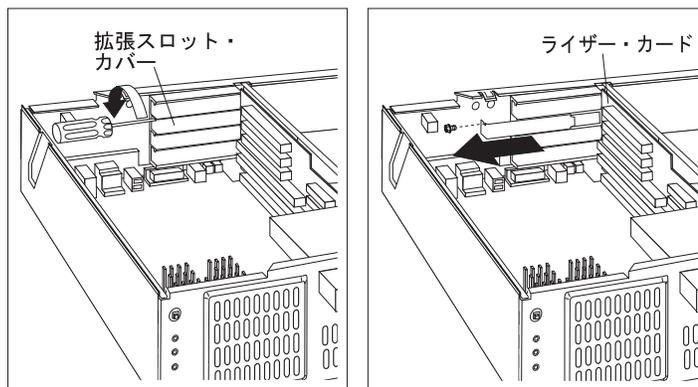
vページの『安全に正しくお使いいただくために』および4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

新しいアダプターに付属の説明書をお読みください。

コンピューターおよび接続されている他のすべての装置の電源をオフにしてください。

コンピューターに接続されているケーブルをすべて取り外して、コンピューターのカバーを開けてください(5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。

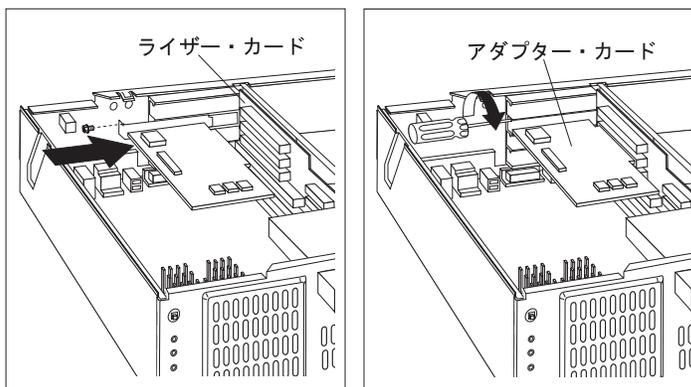
- 1 アダプター付属の説明書を読み、ISA または PCI のいずれのスロットに取り付けるかを判別します。
- 2 該当する拡張スロットのねじとカバーを外します。拡張スロットのねじの位置が分からない場合には、30ページの『サイド・カバーの取外し』を参照してください。



- 3 アダプターが入っている静電気防止袋をコンピューターの塗装されていない金属面に接触させてから、アダプターを袋から取り出します。

- 4** アダプターをライザー・カード上の該当するスロットに取り付け、ねじで固定します。PCI アダプターの部品の搭載面はシステム・ボードに対して下向きとなり、ISA アダプターの部品の搭載面は上向きとなります。取付けの際に、コンピューターまたはアダプターの部品が邪魔になる場合には、別のスロットを使用してください。

フル・サイズの ISA アダプターを一番下の拡張スロットに取り付ける場合は、サイド・カバーとシステム・ボードを取り外す必要があります。30ページの『サイド・カバーの取外し』 および 31ページの『フル・サイズ ISA アダプターの取付け』を参照してください。



- 5** ユーザーズ・ガイドの「装置に関する記録用紙」に、取り付けたアダプター名を書き込みます。

サイド・カバーを取り外した場合は、34ページの『サイド・カバーの再取付け』を参照してください。

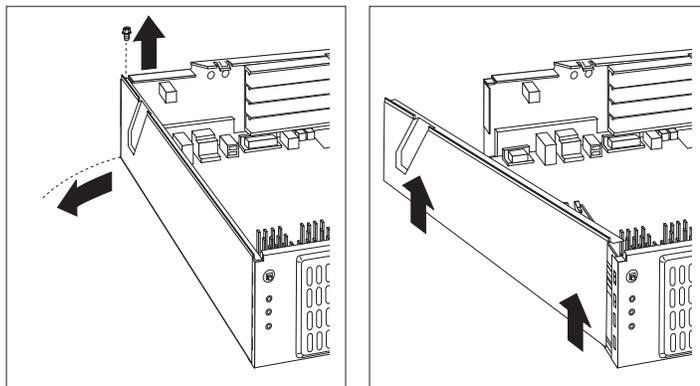
次の手順

別のオプションの作業を行う場合は、該当する項に進みます。  
取付けを完了するには、62ページの第6章、『取付けの完了』に進みます。

## サイド・カバーの取外し

拡張スロットのねじに手が届かない場合には、コンピューターのサイド・カバーを取り外す必要があります。

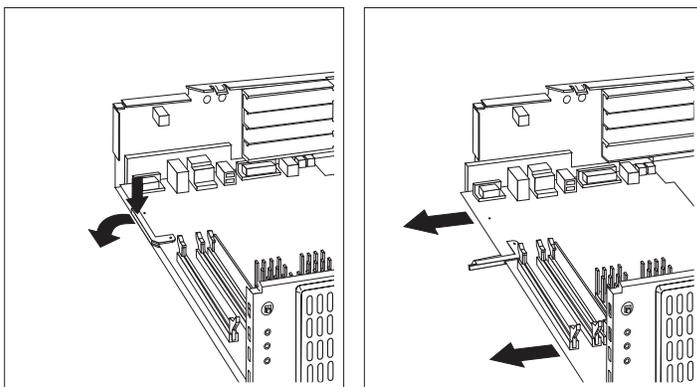
- 1 サイド・カバーから上部ねじを外します。
- 2 扉を開くようにしてサイド・カバーを開きます。
- 3 サイド・カバーを開いたら、上部を少し持ち上げてサイド・カバーを取り外します。



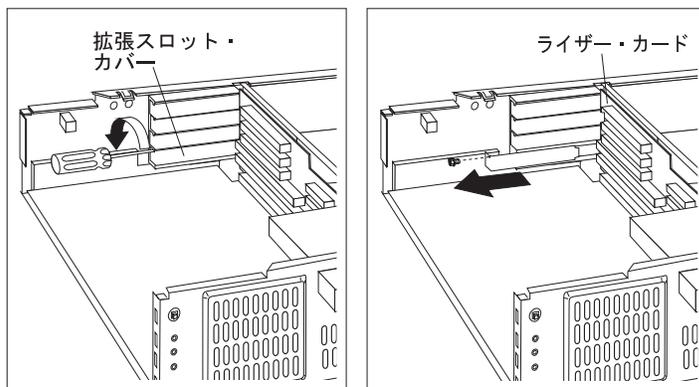
## フル・サイズ ISA アダプターの取付け

フル・サイズ ISA アダプターを一番下の拡張スロットに取り付けるためには、最初にサイド・カバーとシステム・ボードを取り外さなければなりません。

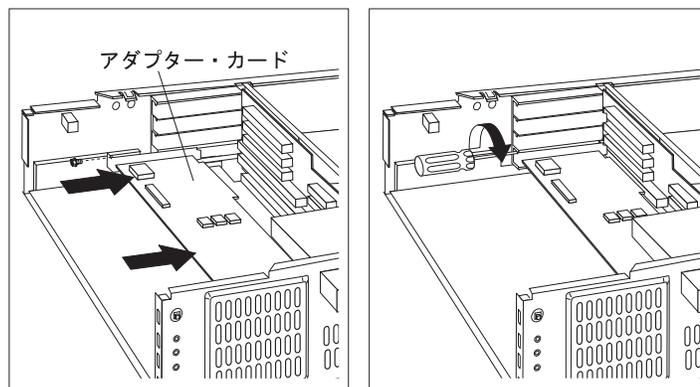
- 1 サイド・カバーを取り外します。(30ページの『サイド・カバーの取外し』を参照。)
- 2 システム・ボードを取り外します。
  - a. システム・ボード・ラッチを少し押し下げ、システム・ボードからシステム・ボード・ラッチのプラスチック・タブを外します。
  - b. システム・ボード・ラッチを掴んで回します。これによってシステム・ボードは解放されます。
  - c. システム・ボード・ラッチを引っ張りながら、システム・ボードを引き出して保管しておきます。



- 3 下部拡張スロットのねじおよびカバーを取り外します。

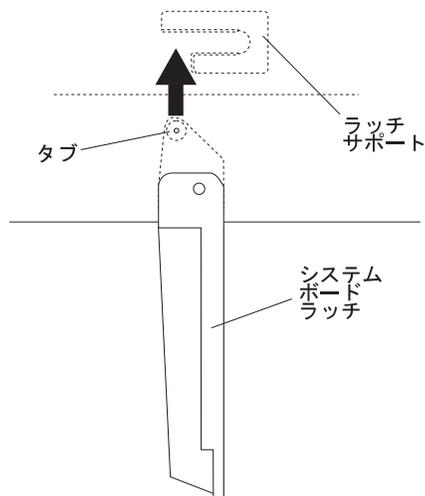


- 4 フル・サイズ・アダプターを一番下の拡張スロットへ滑り込ませます。その際、両端を押し、ライザー・カード内に正しく装着されるようにします。



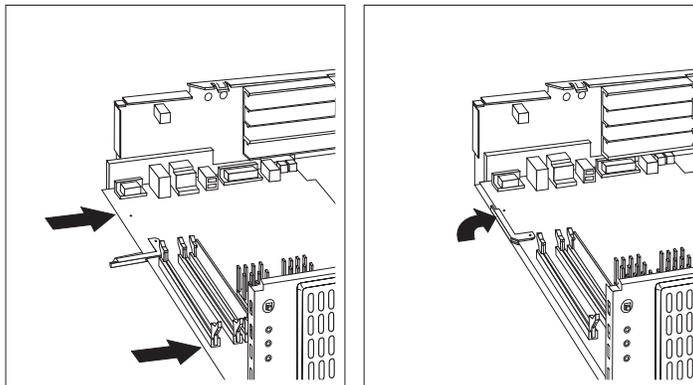
- 5 システム・ボードをコンピューターに再び挿入します。

- a. システム・ボード・ラッチが必ず突き出し、ラッチの下側のタブがラッチ・サポートの開口部とそろうようにします。システム・ボード・ラッチおよびラッチ・サポートの図を以下に示します。



- b. システム・ボードを本体とそろえ、ライザー・カード内のNLX カード・エッジ・コネクタから 5 ミリの位置で停止するまで滑り込ませます。必要に応じて、システム・ボードの端部を持ち上げ、コンピューターの下部から少し浮かせます。

- c. システム・ボードが NLX カード・エッジ・コネクタ内にはまる前に、ラッチを元の方向へ回します。ラッチの下側のタブがサポートとかみ合い、システム・ボードは NLX カード・エッジ・コネクタに差し込まれていきます。

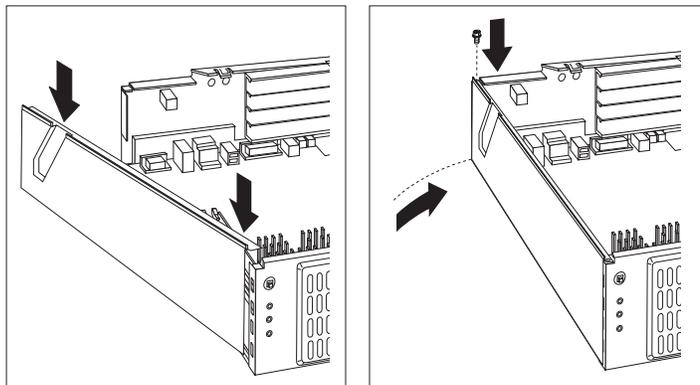


フル・サイズ・アダプターがあるため、システム・ボードの装着状態を見ることができないため、システム・ボード・ラッチをラッチ・サポート内にかみ合わせて確実に装着させることが大切です。

- 6** システム・ボードとアダプターが確実に装着されたら、ねじでフル・サイズ・アダプターを拡張スロットに固定します。
- 7** サイド・カバーと上部ねじを再び取り付けます(34ページの『サイド・カバーの再取り付け』を参照)。
- 8** ユーザーズ・ガイドの「装置に関する記録用紙」に、取り付けたアダプター名を書き込みます。

## サイド・カバーの再取付け

- 1 サイド・カバーを少し開いた状態で保持し、サイド・カバーの突起部のある側とスロットをそろえます。
- 2 突起部分をスロットにはめ、サイド・カバーを閉じます。



- 3 システム背面側のねじ穴をそろえ、ねじを挿入します。

— 次の手順 —

別のオプションの作業を行う場合は、該当する項に進みます。

取付けを完了するには、62ページの第6章、『取付けの完了』に進みます。

## アダプターの取外し

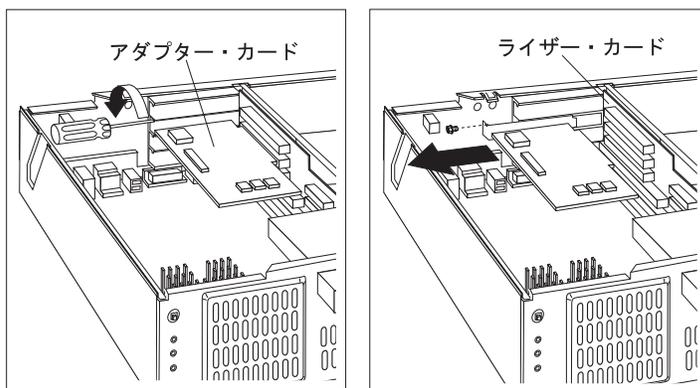
作業を始める前に

vページの『安全に正しくお使いいただくために』および4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

コンピューターおよび接続されている他のすべての装置の電源をオフにしてください。

すべての外部ケーブルおよび電源コードを取り外し、コンピューターのカバーを取り外します(5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。

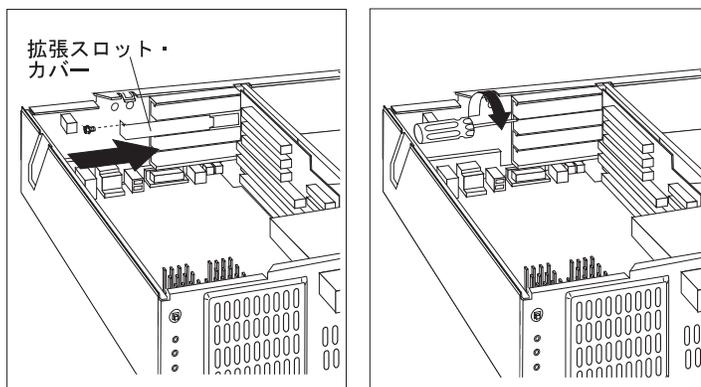
**1** 取り外すアダプターを確認して、ねじを取り外します。



**2** アダプターを取り外して、静電気防止袋に入れます。

拡張スロットのねじに手が届かない場合には、コンピューターのサイド・カバーを取り外す必要があります。30ページの『サイド・カバーの取外し』を参照してください。

- 3** このスロットに別のアダプターを取り付ける必要がない場合には、拡張スロット・カバーを取り付けます。



- 4** ユーザーズ・ガイドの「装置に関する記録用紙」に進み、取り外したアダプターの名前を削除します。

注: アダプターを取り外すことによって、システム・リソースが解放されます。従来型の ISA アダプターを取り外す場合には、装置構成ユーティリティを使用して、使用していたリソースを[使用可]に設定しなければなりません。詳細については、62ページの第6章、『取付けの完了』を参照してください。

次の手順

別のオプションの作業を行う場合は、該当する項に進みます。

取付けを完了するには、62ページの第6章、『取付けの完了』に進みます。

## 内蔵ドライブ

内蔵ドライブは、コンピューターがデータの読取りや保管に使用する装置です。コンピューターにドライブを取り付けると、記憶容量を増やしたり、別のタイプの媒体を読み取ったりできるようになります。本製品で使用可能なドライブ・タイプの一部は以下のとおりです。

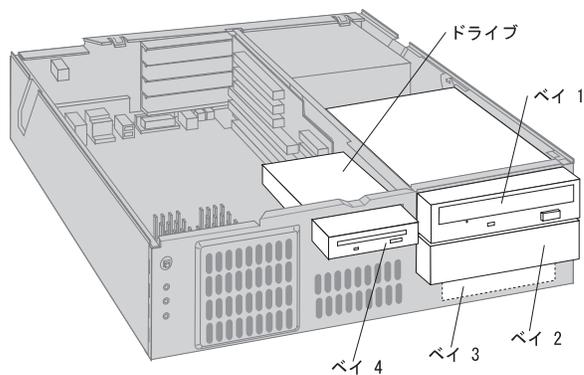
- ディスク・ドライブ
- ハード・ディスク・ドライブ
- 磁気テープ・ドライブ
- CD-ROM ドライブ

内蔵ドライブは、コンピューターの前面にあるベイに取り付けられます。本書では、これらのベイを、ベイ 1、ベイ 2、というように表記します。

本製品には以下のドライブが標準装備されています。

- ベイ 4 に 3.5 インチ・ディスク・ドライブ
- ベイ 3 に 3.5 インチ・ハード・ディスク・ドライブ
- CD-ROM ドライブが標準装備されている場合は、ベイ 1 に取り付けられています。

以下の図は、ドライブ・ベイの位置を示しています。



## ドライブ仕様

次の表には、各ベイに取り付けることができるドライブと、その高さが示されています。

ベイ	ドライブ	最大の 高さ mm	最小の 高さ mm
1	5.25 インチ CD-ROM	41.3	-
2	テープ・バックアップ・ドライブ CD-ROM ドライブ ハード・ディスク・ドライブ	25.4	25.4
3	ハード・ディスク・ドライブ	25.4	25.4
4	3.5 インチ・ディスケット・ドライブ	25.4	-

注:

高さ 41.3 mm (1.6 インチ) を超えるドライブは使用できません。

取外し可能な媒体 (ディスケット、テープ、または CD) を使用するドライブは、ベイ 1、2、または 4 のアクセス可能なベイに取り付けなければなりません。

PC 300PL はディスケット・ドライブを 1 つだけサポートします。

3.5 インチ・ドライブをベイ 1 またはベイ 2 に正しく取りつけるには、5.25 インチ・ベイ用の 3.5 インチ変換キットを使用する必要があります。詳細については、販売店または IBM 特約店にお尋ねください。

## 電源および信号ケーブル

本製品の電源機構は、ライザー・カードおよび IDE ドライブに直接電源を供給します。ディスクセット・ドライブには、ライザー・カードを介して電源が供給されます。本製品では、以下のケーブルが使用されています。

4 芯 電源ケーブルは、ほとんどのドライブに、電源機構から直接接続されます。これらのケーブルの終端は、プラスチックのコネクターになっています。これらのコネクターにはいくつかのサイズがあります。また、ライザー・カードに接続される電源ケーブルもあります。ディスクセット・ドライブの電源ケーブルはライザー・カードに接続されます。

信号ケーブルは、ライザー・カードから IDE ドライブに接続されます。信号ケーブルはリボン・ケーブルと呼ばれることもあります。本製品に付属の信号ケーブルは、2 種類あります。

- 幅の広い方の信号ケーブルには、3 つのコネクターが付いています。これらのコネクターのうち 2 つは、取り付けられるドライブに接続し、3 つ目のコネクターは、ライザー・カードの裏面の 1 次 IDE コネクターに接続します。
- 幅の狭い信号ケーブルには、2 つのコネクターが付いています。これらはディスクセット・ドライブおよびライザー・カード上のディスクセット・ドライブ・コネクターに接続します。

注: ライザー・カード上のコネクターの位置については、25 ページの『アダプターおよびライザー・カード』を参照してください。

これから、電源および信号ケーブルを内蔵ドライブに接続する際の注意事項を説明します。

本製品に搭載のディスクセット・ドライブおよびハード・ディスク・ドライブには、電源ケーブルと信号ケーブルがすでに接続されています。また、CD ドライブが搭載されている場合には、ケーブルはすでに接続されています。ドライブを交換する場合には、どのケーブルがどのドライブに接続されていたかを書き留めておいてください。

ドライブを取り付けたときには、必ず、信号ケーブルの終端のコネクターをドライブに接続してください。また、もう一方の端のコネクターは、ライザー・カードに接続してください。こうすると、コンピューターの電子ノイズが少なくなります。

1 本のケーブル上に複数の IDE 装置を接続する場合には、1 つをマスター装置、それ以外をスレーブ装置として設定しなければなりません。そうしないと、IDE 装置のうちいくつかは、システムに認識されない場合があります。マスターまたはスレーブの指定は、各 IDE 装置のスイッチまたはジャンパーの設定によって決めます。

3 つ以上のハード・ディスク・ドライブが取り付けられている時にパフォーマンスを最適化するには、必ずハード・ディスク・ドライブを高速データ転送（モード 1 以上）で 1 次 IDE ケーブルに接続してください（ハード・ディスク・ドライブ 0 および 1）。

PC 300PL はディスク・ドライブを 1 つだけサポートします。

外付けドライブを接続するには、コンピューターにアダプターを取り付ける必要があります。

---

## ベイ 1、2、および 3 のドライブの取扱い

ベイ 1、2、または 3 にドライブを取り付けまたは取り外しをするには、コンピューターの電源機構の上にドライブ・ケージを持ち上げる必要があります。コンピューターに向かって、ドライブ・ケージは正面右角にあります。

### 作業を始める前に

vページの『安全に正しくお使いいただくために』および 4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取扱い』をお読みください。

取付けまたは交換を行うドライブに付属している説明書をお読みください。

コンピューターおよび接続されている他のすべての装置の電源をオフにしてください。

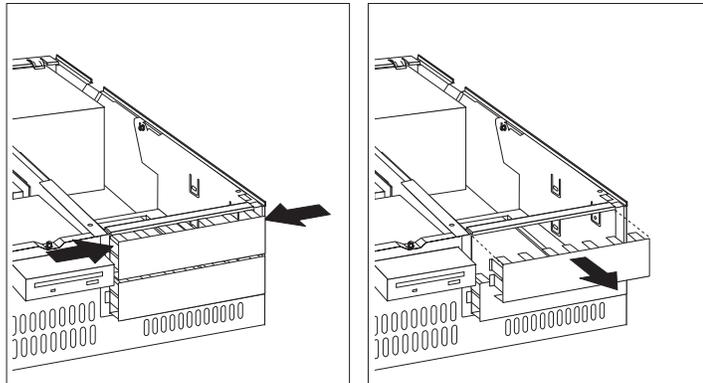
コンピューターに接続されているケーブルをすべて取り外して、コンピューターのカバーを開けてください (5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。

## ドライブ・ベイでの作業

本製品は、ベイ 3 および 4 にドライブが標準装備されています。モデルにより、ベイ 1 または 2 にドライブがすでに取り付けられていることもあります。ドライブがまだ取り付けられていないドライブ・ベイは、メタル・シールドがコンピューター・フレームに取り付けられており、またベイ・パネルがコンピューター本体のカバーに取り付けられています。ドライブを取り付ける前に、メタル・シールドを取り除く必要があります。ハード・ディスクを取り付ける場合を除き、ベイ・パネルも取り外す必要があります。

ドライブ・ベイには以下のようにしてアクセスします。

- 1** コンピューターのカバーを取り外します。手順については、5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照してください。
- 2** コンピューターの前部を手前に向け、使用したいベイをカバーしているメタル・シールドを取り外します。
  - a. メタル・シールドの側面のタブを撓むまで押し、片側を引き出します。次に反対側を引き出します。
  - b. ベイ 2 をカバーしているシールドを取り扱うためには、ベイ 1 からシールドを取り外さなければならない場合もあります。



注: フロント・アクセス可能なドライブをベイから取り外し、別のドライブを取り付けるのであれば、ベイ・パネルとメタル・シールドを再び取り付けおきます。

## 次の手順

ベイ・パネルを取り外すには、47ページの『ベイ・パネルの取外し』に進みます。

ドライブ・ケージを回転させて持ち上げ、それを電源機構上に載せておくには、43ページの『ドライブ・ケージを回転させる』に進みます。

ドライブを取り付けるには、45ページの『ベイ 1、2、または 3 へのドライブの取付け』に進みます。

ドライブを取り外すには、48ページの『ベイ 1、2、または 3 からのドライブの取外し』に進みます。

## 他に必要な部品

コンピューター にドライブを追加する場合は、ドライブ・ベイ変換キットを入手しなければならない場合もあります。

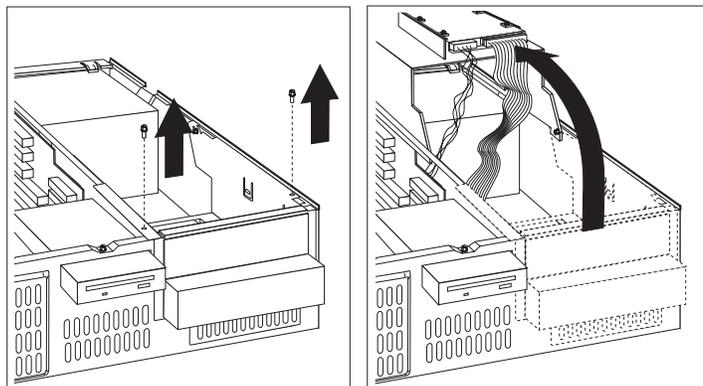
3.5 インチ・ドライブを 5.25 インチ・ベイに取り付ける場合には、ドライブを保持するための変換キットをベイに取り付けなければなりません。この製品およびその他の部品の発注に関しては、2ページの『使用可能なオプションと機構』を参照してください。

## ドライブ・ケージを回転させる

コンピューター内のドライブ・ケージを電源機構の上に持ち上げるには以下のようにします。

- 1** ドライブ・ケージをコンピューターのフレームに固定している 2 本のねじを外します。

- 2** ケージをコンピューター内から電源機構上部に向かって慎重に回転させます。ケージはコンピューター・フレームの上部に乗るまで回転します。



- 3** ケーブルはしばらく接続したままにしておきます。

— 次の手順 —

ドライブを取り付けるには、45ページの『ベイ 1、2、または 3 へのドライブの取付け』に進みます。

ドライブを取り外すには、48ページの『ベイ 1、2、または 3 からのドライブの取外し』に進みます。

## ベイ 1、2、または 3 へのドライブの取付け

作業を始める前に

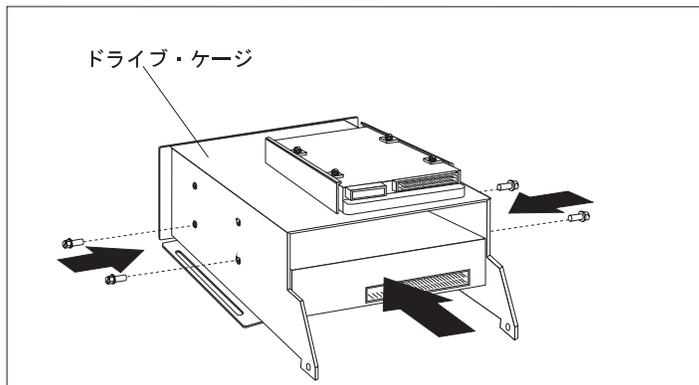
41ページの『ベイ 1、2、および 3 のドライブの取扱い』をお読みください。  
43ページの『ドライブ・ケージを回転させる』をお読みください。  
ドライブに付属の資料をお読みください。

注:

3.5 インチ・ドライブをドライブ・ベイ 1 または 2 に取り付けるためには、変換キットを取り付ける必要があります。5.25 インチ・ベイ用の 3.5 インチ変換キットの購入方法の詳細については、販売店または IBM 特約店までご連絡ください。

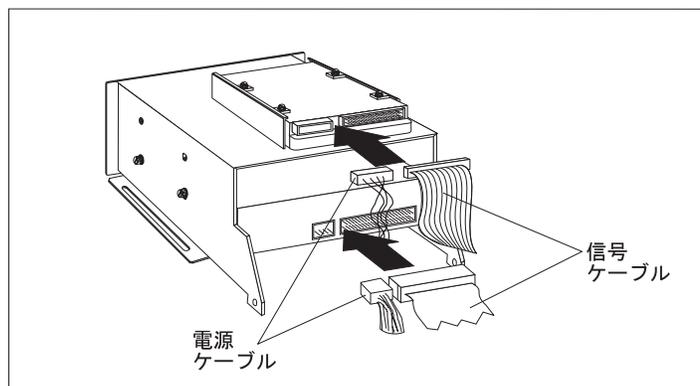
使用しようとするベイをカバーしているメタル・シールドを取り外します。42ページの『ドライブ・ベイでの作業』を参照してください。

- 1 新しいドライブが入っている静電気防止袋を、塗装されていない金属面に接触させてから、ドライブを取り出します。
- 2 ドライブを空のドライブ・ベイに挿入します。ケージは上下が逆さです。したがってドライブも上下逆に入れる必要があります。次にねじを挿入して固く締め、所定位置に固定します。下図は、ベイ 1 に取り付けしたドライブを示しています。



- 3 必要に応じ、ステップ 1 および 2 を繰り返して他のドライブを取り付けます。

- 4** ケーブルを取り付けます。ライザー・カード上のコネクタの位置に関しては、25ページの『アダプターおよびライザー・カード』の図を参照してください。



- 5** ユーザーズ・ガイドの「装置に関する記録用紙」に、変更されたドライブを記録します。

次の手順

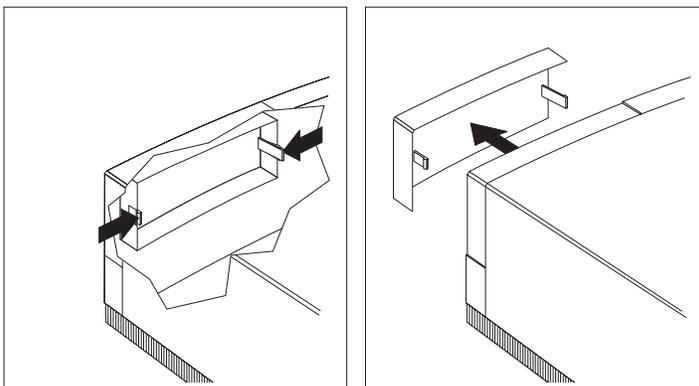
フロント・アクセス可能なドライブを使用するには、該当するベイ・パネルを取り外す必要があります。詳細については 47ページの『ベイ・パネルの取外し』を参照してください。

ドライブをベイ 1、2、または3 から取り外すには、48ページの『ベイ 1、2、または3 からのドライブの取外し』に進みます。

ドライブ・ケージを取り付けるには、51ページの『ドライブ・ケージを回転して固定位置に戻す』に進みます。

## ベイ・パネルの取外し

- 1 コンピューター・カバー上の該当するベイ・パネルを確認します。
- 2 カバーを取り外し (5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』参照)、ベイ・パネルの裏側を調べます。
- 3 ドライバーの先を (必要に応じて) 使用して、ベイ・パネルをカバーに保持しているプラスチック・タブを曲げます。  
CD-ROM ドライブをベイ 1 に取り付ける場合は、最初に外側エッジに最も近いタブを解放する必要があります。
- 4 ベイ・パネルを少し曲げ、両方のタブを解放します。
- 5 ベイ・パネルを取り外します。以下の図は、ベイ 1 からベイ・パネルを取外す場合を示しています。



- 6 取り外されたベイ・パネルは、将来使用するときのために保管しておきます。
- 7 必要に応じて、ステップ 1~3 を繰り返して他のベイ・パネルを取り外します。

### 次の手順

ベイをカバーしているメタル・シールドを取り外します。  
ドライブを取り外すには、48ページの『ベイ 1、2、または 3 からのドライブの取外し』に進みます。  
ドライブ・ケージを取り付けるには、51ページの『ドライブ・ケージを回転して固定位置に戻す』に進みます。

## ベイ 1、2、または 3 からのドライブの取外し

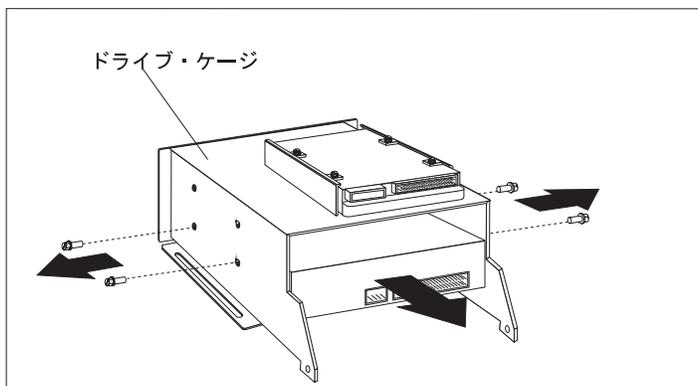
作業を始める前に

41ページの『ベイ 1、2、および 3 のドライブの取扱い』をお読みください。

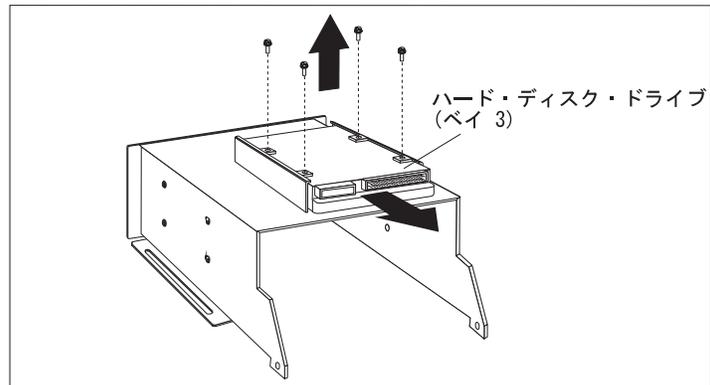
43ページの『ドライブ・ケージを回転させる』をお読みください。

ドライブ・ケージをコンピューター・フレームから回転させた後で、

- 1** 取り外そうとするドライブからケーブルを外します。
- 2** ドライブをドライブ・ケージに固定しているねじを緩めて取り外し、ドライブをベイから引き出します。
  - a. 以下の図は、ベイ 1 から 5.25 インチ・ドライブ (CD-ROM) を取外す場合を示しています。



- b. 3.5 インチ・ハード・ディスク・ドライブをベイ 3 から取り外すには、ドライブの下部からねじを外し、次にドライブをベイから引き出す必要があります。以下の図は、ドライブおよびドライブ・ケージからのねじの取外しを示しています。



**3** 取り外したドライブを静電気防止袋に入れます。

— 次の手順 —

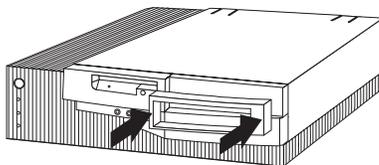
空けたドライブ・ベイを使用しない場合、またはフロント・アクセスしないドライブに取り替える場合には、ベイ・パネルを取り付けます。詳細については 50ページの『ベイ・パネルまたはベゼルの取付け』を参照してください。

ドライブを取り付けるには、45ページの『ベイ 1、2、または 3 へのドライブの取付け』に進みます。

## ベイ・パネルまたはベゼルの取付け

ドライブ 1 および 2 のベイ・パネルは、外側からコンピューター・カバーに取り付けられます。(ベイ・パネルを取り付ける際にカバーを外す必要はありません。)これらは、コンピューター・カバーの外側から所定位置にはまります。以下の図は、ベイ 1 にフロント・アクセス・ドライブ用ベゼルを取付ける場合を示しています。

- 1** ベゼルまたはベイ・パネルをコンピューター・カバーの開口部と位置合せします。
- 2** ベゼルまたはベイ・パネルを、タブが所定位置に固定される音がするまで押し込んで取り付けます。



- 3** 必要に応じ、ステップ 1 および 2 を繰り返して他のベイ・パネルを取り付けます。

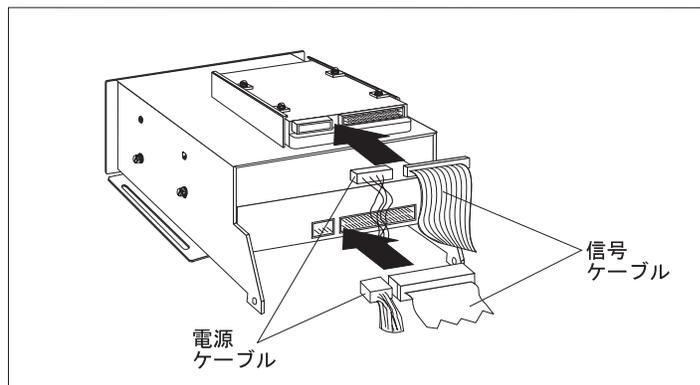
### 次の手順

ドライブを取り付けるには、45ページの『ベイ 1、2、または 3 へのドライブの取付け』に進みます。

## ドライブ・ケージを回転して固定位置に戻す

### 重要

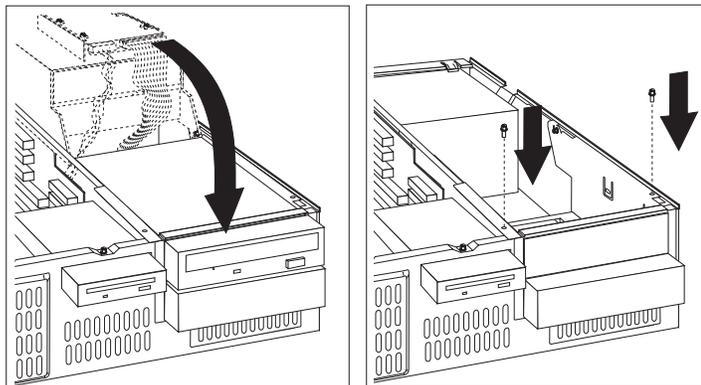
ドライブ・ケージを回転させて固定位置に戻す前に、ベイ 1、2、または 3 のドライブのケーブルを接続します。2 つ以上のドライブが取り付けられる場合は、最初に一番下のドライブにケーブルを接続し、順番に上へと処理をしていきます。以下の図は、電源および信号ケーブルのベイ 1 および 3 のドライブとの接続を示しています。



- 1 ドライブの電源および信号ケーブルを電源機構側に押し寄せます。
- 2 ドライブ・ケージをコンピューターの前方に慎重に回転させます。

注: このとき、電源ケーブルおよび信号ケーブルをはさみ込まないように注意してください。

- 3** ドライブ・ケージおよびコンピューター・フレームの上部にねじを挿入し、固く締めます。



— 次の手順 —

ベイ 4 のドライブの取扱いについては、55ページの『ベイ 4 へのドライブの取付け』または53ページの『ベイ 4 からのドライブの取外し』を参照してください。取付けを完了するには、62ページの第6章、『取付けの完了』に進みます。

## ベイ 4 からのドライブの取外し

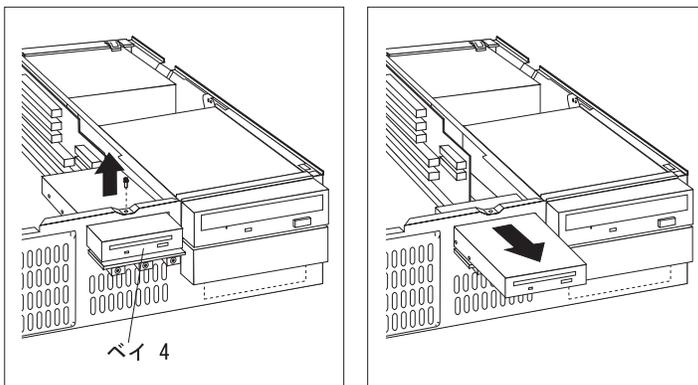
作業を始める前に

vページの『安全に正しくお使いいただくために』および 4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

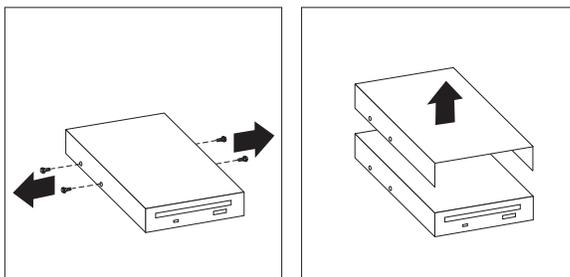
コンピューターおよび接続されている他のすべての装置の電源をオフにしてください。

コンピューターに接続されているケーブルをすべて取り外して、コンピューターのカバーを開けてください (5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。

- 1 ディスケット・ドライブ取付け金具の上部のねじを緩めて外し、電源ケーブルと信号ケーブルを外します。
- 2 ドライブおよび取付け金具をコンピューターから前方に引き出します。



- 3 コンピューターから取り出した後、ディスケット・ドライブ取付け金具の側面のねじを緩めて外し、ドライブと取り付け金具を分離します。



— 次の手順 —

ユーザーズ・ガイドの「装置に関する記録用紙」に、この取付けについて記録してください。

ドライブを取り付けるには、55ページの『ペイ 4 へのドライブの取付け』に進みます。

ドライブと取付け金具を組み立てたものを取り付け、作業を完成させるには、62ページの第6章、『取付けの完了』に進みます。

## ベイ 4 へのドライブの取付け

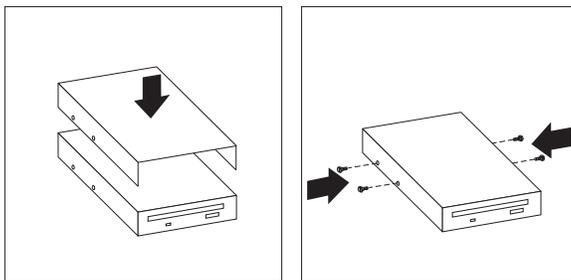
作業を始める前に

vページの『安全に正しくお使いいただくために』および 4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

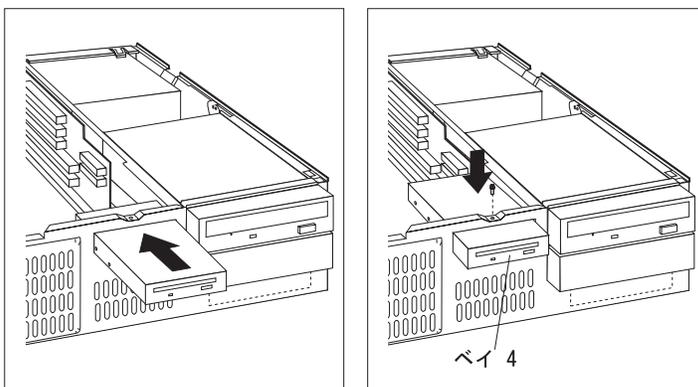
コンピューターおよび接続されている他のすべての装置の電源をオフにしてください。

コンピューターに接続されているケーブルをすべて取り外して、コンピューターのカバーを開けてください (5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。

- 1 コンピューター本体の外側で作業を行います。ドライブをディスク・ドライブ取付け金具内に挿入し、次に側面のねじを挿入して固く締めます。



- 2 ディスク・ドライブ取付け金具をコンピューターに挿入し、上部ねじを締めます。



- 3** 電源ケーブルと信号ケーブルを接続します。ライザー・カード上のコネクタの位置に関しては、25ページの『アダプターおよびライザー・カード』の図を参照してください。

— 次の手順 —

ユーザズ・ガイドの「装置に関する記録用紙」に、この取付けについて記録してください。

ベイ 1、2、または 3 にドライブを追加するには、45ページの『ベイ 1、2、または 3 へのドライブの取付け』を参照してください。

ドライブをベイ 1、2、または 3 から取り外すには、48ページの『ベイ 1、2、または 3 からのドライブの取外し』を参照してください。

取付けを完了するには、62ページの第6章、『取付けの完了』に進みます。

## 第5章 機密保護オプションの取扱い

この章では、本製品で使用可能な機密保護オプションのいくつかについて説明します。

作業を始める前に

vページの『安全に正しくお使いいただくために』および4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取扱い』をお読みください。

コンピューターおよび接続されている他のすべての装置の電源をオフにしてください。

コンピューターに接続されているケーブルをすべて取り外して、コンピューターのカバーを開けてください(5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。

分からなくなったパスワードを消去するには、システム・ボード上のCMOS クリアー (パスワード) ジャンパーを移動します。

注: パスワードの設定、変更、削除には、装置構成ユーティリティを使用します。詳細については、*ユーザズ・ガイド*を参照してください。

ディスクへの書き込みを防止するためには、システム・ボード上の書き込み禁止スイッチを使って設定することができます。

上記の手順の早見表として、次のリストを示します。

58ページの『わからなくなったパスワードの消去』

61ページの『ディスク書き込み禁止スイッチの設定』

---

## わからなくなったパスワードの消去

注: パスワードを設定するときは 71ページの『パスワードの設定』を参照してください。パスワードの変更または削除を行うときは、*ユーザーズ・ガイド*を参照してください。

コンピューターは、システム・ボード上のCMOSメモリーを、装置構成情報の保管に使用しています。CMOSメモリーは、以下に関する情報を保持します。

- 日付と時刻
- 機密保護機能
- 省電力機能
- 記憶装置
- キーボードとマウス
- 従来型 ISA 構成情報
- プラグ・アンド・プレイ構成情報
- ポートの割当て
- I/O アドレスと割込み
- その他の選択可能な機能

機密保護機能には、始動パスワードと管理者パスワードの設定が含まれています。わからなくなったパスワードを消去する必要がある場合は、CMOSメモリーに割り当てられているジャンパーを移動させることにより、装置構成情報をすべて消去しなければなりません。

### 重要

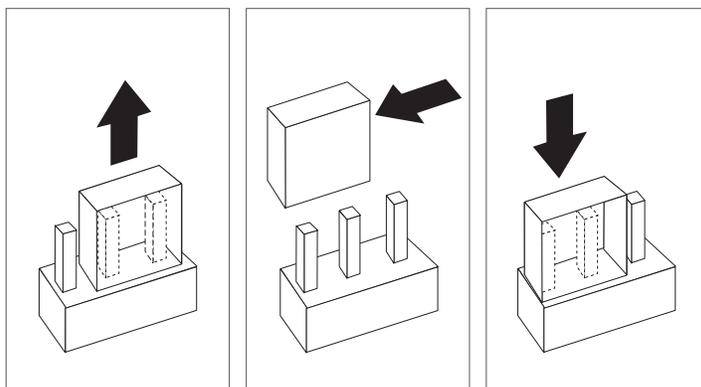
CMOSメモリーをクリアーすると、コンピューターの構成が消去されます。CMOSメモリーをクリアーした後でコンピューターを再構成する必要があるため、CMOSジャンパーを移動する前に、コンピューターの構成情報を記録しておいてください。

## 作業を始める前に

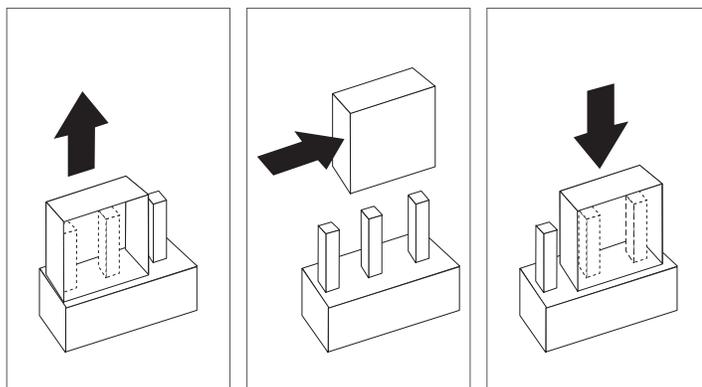
装置構成ユーティリティを使用して、すべての構成情報を記録してください。  
vページの『安全に正しくお使いいただくために』および4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。  
本体およびすべての接続されている装置の電源をオフにしてください。  
すべての外部ケーブルおよび電源コードを取り外し、コンピューター・カバーを取り外します(5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。

ジャンパーはシステム・ボード上にあり、*CMOS clear* とラベルが付けられています。このジャンパーの位置については、11ページの『システム・ボード上のパーツの識別』を参照するか、またはコンピューター・カバーの裏側のラベルを参照してください。

- 1 ジャンパーを通常のピンの位置(1 および 2) からピン 2 および 3 に動かします。ジャンパーを動かすには先端のとがったペンチを使用すると便利ですが、システム・ボード上の部品をこすったり、ジャンパーをつぶさないように注意してください。



- 2 1分ほどたったら、ジャンパーを通常の位置（ピン1および2）に戻します。これで、CMOSメモリーがクリアされます。



— 次の手順 —

CMOSメモリーをクリアした後で、コンピューターを再構成しなければなりません。コンピューターを組み立て直して(62ページの第6章、『取付けの完了』に進む)から、装置構成ユーティリティーを使用して、日付と時刻のリセット、パスワードの再設定、およびコンピューターの再構成を行ってください。詳細については、71ページの『パスワードの設定』および『ユーザズ・ガイド』を参照してください。

## ディスク書き込み禁止スイッチの設定

ディスク書き込み禁止スイッチは、ディスク・ドライブでディスクに情報を書き込むことができるかどうかを制御します。ネットワークを介して入手できる情報の機密保護に注意を払う必要がある場合には、ディスクへの書き込み防止機能は特に有用です。

注: このスイッチはディスクからのデータ読取り機能には影響しません。

### 作業を始める前に

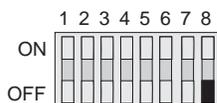
vページの『安全に正しくお使いいただくために』および4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

本体および接続されているすべての装置の電源をオフにしてください。

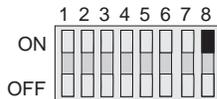
コンピューターに接続されているすべての外部ケーブルを取り外し、本体のカバーを取り外してください(5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。

- 1 システム・ボード上の書き込み禁止スイッチの位置を確認します。詳細については、コンピューター・カバーの裏側のラベルを参照するか、あるいは11ページの『システム・ボード上のパーツの識別』を参照してください。
- 2 通常のディスクの操作または読取り専用ディスクの操作では、スイッチ8をそれぞれ下図のように設定します。このスイッチの設定には、ボールペンまたは小さなねじ回しを使用すると便利です。

通常のディスク操作



読取り専用ディスク操作



### 次の手順

別のオプションの作業を行う場合は、該当する項に進みます。

取付けを完了するには、62ページの第6章、『取付けの完了』に進みます。

---

## 第6章 取付けの完了

オプションを取り付けた後、取り外した部品の取付け、カバーの再取付け、ならびに電源コードや電話線を含むケーブルの再接続を行う必要があります。また、取り付けられたオプションによっては、装置構成ユーティリティーの情報を更新しなければならない場合もあります。

上記の手順の早見表として、次のリストを示します。

63ページの『カバーの再取付けとケーブルの接続』

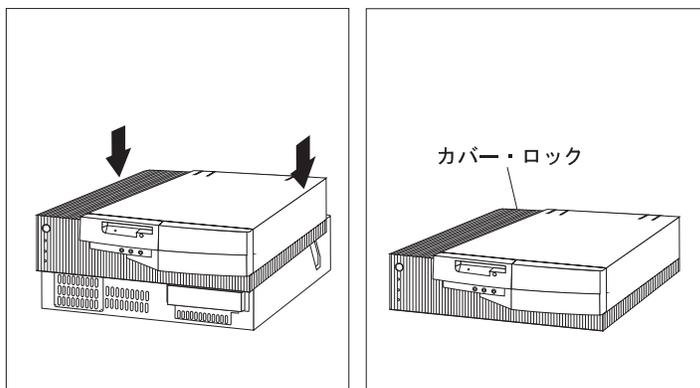
65ページの『装置構成情報の更新』

## カバーの再取付けとケーブルの接続

作業を始める前に

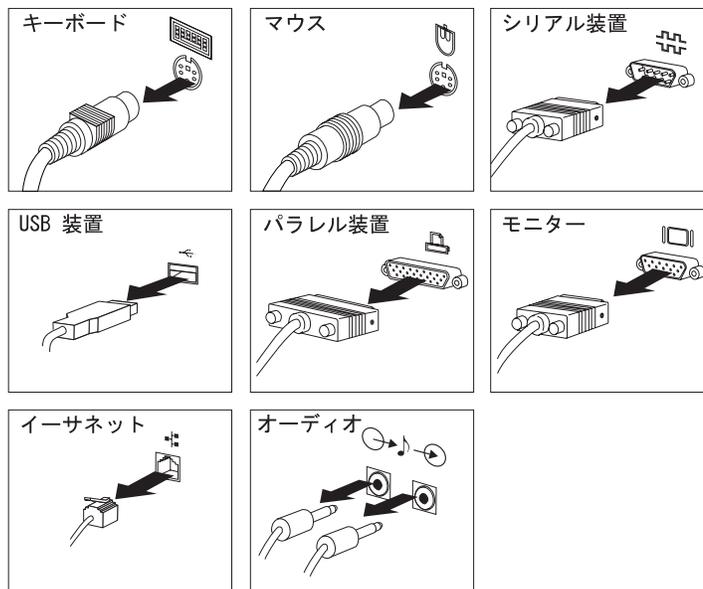
vページの『安全に正しくお使いいただくために』および4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

- 1 すべての構成部品が正しく組み立て直されており、コンピューターの内側にツールやねじが残っていないか確認してください。
- 2 カバーの再取付けの邪魔になるケーブルをどけてください。
- 3 カバーをコンピューター フレームの上に降ろします。カバーがコンピューターの背面とそろうまで押し戻してカバーを固定します。



- 4 コンピューターの背部にあるカバー・ロック・キーを使用して、カバーをロックすることもできます。

**5** 外部ケーブルとコードをコンピューターに再接続してください。



**6** 本製品にモデムやファクス機器を接続している場合は、壁のモジュラー・ジャックと本体に電話線を接続し直します。電源コードを電源コンセントに差し込みます。

**7** コンピューター構成を更新します。65ページの『装置構成情報の更新』を参照してください。

## 装置構成情報の更新

### 重要

本節の構成情報は、オプションの取付けに適用されます。装置構成ユーティリティーの使用法の詳細については、*ユーザズ・ガイド*を参照してください。

また、構成情報を更新した後でデバイス・ドライバーを導入しなければならない場合があります。詳細については、オプションに付属の説明書を参照し、デバイス・ドライバーが必要かどうかや、その導入方法を判別してください。また、デバイス・ドライバーは、サポート CD に入っています。

オプションの追加、除去、または交換の後、装置構成情報を更新しなければなりません。この構成はコンピューターで自動的に実行することもできますが、*手動でも* 実行できます。本製品がオプションを自動的に構成する場合は、システム・プログラムを使用します。システム・プログラムが設定を更新しない場合には、装置構成ユーティリティーを使用して、適切な設定を再構成することができます。

たとえば、ほとんどの内蔵ハード・ディスク・ドライブを増設した後でコンピューターを始動すると、設定は自動的に更新されるので、装置構成ユーティリティーを使用してそれらの変更内容を保管してください。ただし、従来型 ISA アダプターの取付けまたは取外し後にリソース競合が発生した場合は、装置構成情報を手動で更新し、その情報を保管する必要があります。

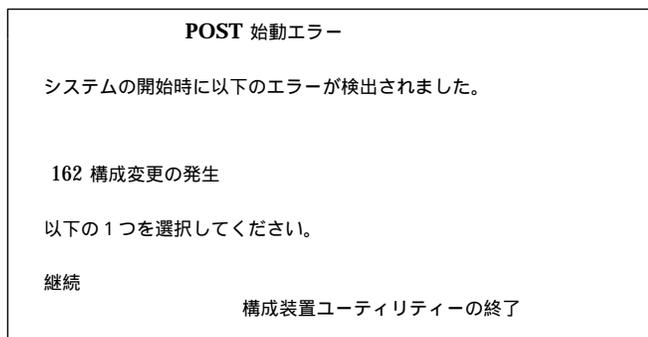
### 注:

1. 変更を行う前に、必ずカスタマイズされたすべての設定値を記録します。
2. リソースの競合によるエラー・メッセージの詳細については、*ユーザズ・ガイド*を参照してください。

## 装置構成ユーティリティーの開始

ほとんどのオプションを取り扱った後で初めてコンピューターを再始動させると、構成変更が発生したことを知らせるメッセージが表示されます。次に、構成設定を手動で更新するか、あるいはシステム・プログラムによって自動的に更新された設定を確認して保管するか、装置構成ユーティリティーに入力するよう求めるプロンプトが表示されます。

オプションを変更してコンピューターを再始動すると、次の画面が表示されます。



注: 発生した構成変更によっては、ここに示されているのとは別のエラー・メッセージが表示される場合があります。

上記画面が表示された場合は、装置構成ユーティリティー・メニューが表示されるまで装置構成を設定するを選択します。

上記画面が表示されない場合は、以下の手順に従って、装置構成ユーティリティー・メニューに進みます。

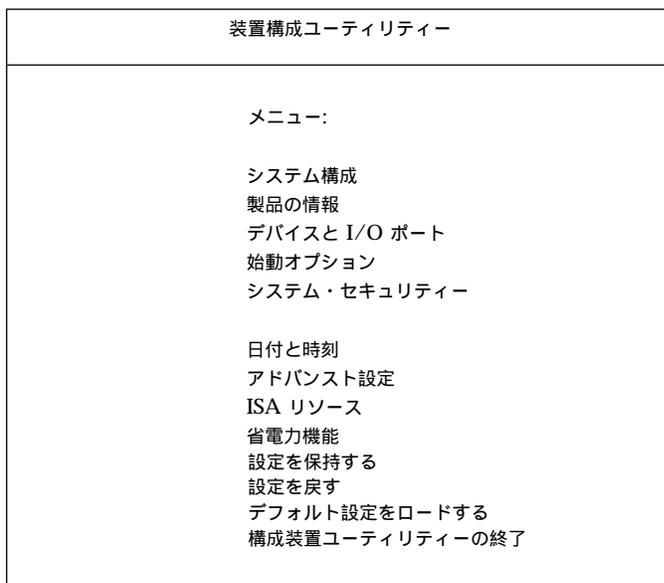
装置構成ユーティリティにアクセスする場合：

**1** コンピューターの電源をオンにします。

コンピューターの電源がすでにオンになっている場合には、オペレーティング・システムを遮断して本体の電源をオフにし、2、3 秒待ってから、再始動してください。本体を再始動するのに、**Ctrl+Alt+Del** を使用しないでください。

**2** 画面の下端左隅に装置構成ユーティリティのプロンプトが表示されているときに、**F1** を押します。

- a. 管理者パスワードを設定していない場合には、装置構成ユーティリティ・メニューが現れます。管理者パスワードを設定してある場合には、その管理者パスワードをタイプして、**Enter** を押してください。
- b. 管理者パスワードと始動パスワードの両方を設定してある場合には、パスワード・プロンプトにそのどちらでもタイプすることができます。ただし、始動パスワードをタイプした場合、装置構成ユーティリティの限定された情報を表示することはできませんが、設定を変更することはできません。装置構成ユーティリティの設定を変更するためには、パスワード・プロンプトに管理者パスワードをタイプしてください。



注: コンピューターの画面に表示されるメニューは、ここに示されているのと多少異なっている場合がありますが、機能は同じです。

## 設定の変更と終了

装置構成ユーティリティ・メニューで、変更内容を表示したり、保管したりすることができます。また、手動によって変更を行い、その設定を保管することもできます。

装置構成ユーティリティ内の記号を識別するための早見表を以下に示します。キーの機能については、*ユーザズ・ガイド*を参照してください。

メニュー項目の横に中黒 ( ) が表示されている場合は、追加メニューが使用可能です。

大かっこ ( [ ] ) で囲まれているほとんどの情報が変更可能です。[ ] で囲まれていない情報は変更できません。

メニュー項目の横に右向き矢印 ( ) が付いている場合は、そのカテゴリで構成変更があったことを表しています。は、後続のメニューに表示されることもあります。

アスタリスク (\*) がメニュー項目の横に表示されている場合は、リソース競合が検出されています。

変更を完了するか、あるいは情報の表示が済んだら、装置構成ユーティリティ・メニューに戻り、設定を保存するを選択して、変更内容を保管してください。この位置で、装置構成ユーティリティを終了することができます。

装置構成ユーティリティを終了するためには、次の手順に従ってください。

- 1 装置構成ユーティリティ・メニューから、**Esc** キーを押します。
- 2 「セットアップの終了」メニューが表示されます。変更内容を保管することもできますが、変更内容を保管せずに装置構成ユーティリティを終了することもできます。あるいは、装置構成ユーティリティ・メニューに戻ることもできます。矢印キーを使用して望みのオプションを選択し、**Enter** キーを押します。

## 従来型 ISA アダプターの構成

従来型 ISA アダプターを構成するためには、アダプターのスイッチまたはジャンパーの設定値を変更しなければならない場合があります。また、装置構成ユーティリティーを使用してメモリー位置、入出力割当て、DMA および割込み指定といった従来型 ISA リソース情報の設定も必要です。

注: 必要なリソースおよびスイッチ設定の詳細については、アダプターに付属の資料を参照してください。従来型リソース設定は、アダプターを装着する前に行ってください。

取り付けられているアダプターに合った従来型リソース情報を設定するためには、次のように行います。

- 1** 装置構成ユーティリティーを開始します (66ページの『装置構成ユーティリティーの開始』を参照)。
- 2** 「装置構成ユーティリティー」メニューから「ISA リソース」を選択します。
- 3** 必要に応じて、「メモリー・リソース、I/O ポート・リソース、DMA リソース」または「割込みリソース」を選択します。
- 4** 該当するリソースを「ISA で使用中」に設定します。
- 5** 装置構成ユーティリティーを終了するときには、変更内容を必ず保管してください。

従来型 ISA アダプターを取り外した場合は、使用されなくなったシステム・リソースを「使用可」にリセットしなければなりません。これを行うには、上記の手順に従い、ステップ 4 で「使用可」を選択します。

注: アダプターおよび競合の解決の詳細については、26ページの『アダプター構成』および75ページの付録B、『割込みリソースと DMA リソース』を参照してください。

Windows 95 をお使いの場合、Windows 95 上でリソースの予約を行わなければならない場合があります。

## 始動装置の構成

始動装置は、コンピューターの電源がオンになったときにコンピューターが開始する装置です。コンピューターに新しい装置を追加した後、始動装置の順序を変更することもできます。装置構成ユーティリティプログラムを使用して始動装置を構成することができます。

開始装置は以下のようにして構成します。

- 1** 装置構成ユーティリティを開始します (66ページの『装置構成ユーティリティの開始』を参照)。
- 2** 装置構成ユーティリティメニューから「始動オプション」を選択します。
- 3** 「最初の始動装置」を選択します。
- 4** 矢印キーで選択を行います。
- 5** 必要に応じて、「2番目の始動装置」、「3番目の始動装置」および「4番目の始動装置」について上記各ステップを繰り返します。
- 6** 装置構成ユーティリティを終了するときには、変更内容を必ず保管してください。

## パスワードの設定

CMOS クリアー・ジャンパーを使用して コンピューター 構成およびセットアップ情報の消去を行った場合には、コンピューター を再構成し、日付と時間を設定し、そして電源オンまたは管理者パスワードをリセットする必要があります。

注: パスワード保護ならびに日付と時間の設定に関する詳細については、*ユーザーズ・ガイド* を参照してください。

電源オンまたは管理者パスワードのリセットは以下のように行います。

- 1** 装置構成ユーティリティを開始します (66ページの『装置構成ユーティリティの開始』を参照)。
- 2** 「装置構成ユーティリティ」メニューから「システム機密保護」を選択します。
- 3** 「管理者パスワード」または「始動パスワード」を選択します。
- 4** 指示に従ってパスワードを変更します。詳細については、*ユーザーズ・ガイド* のパスワード・セクションを参照してください。
- 5** 装置構成ユーティリティを終了するときには、変更内容を必ず保管してください。

注: CMOS メモリーのクリアーに関しては、58ページの『わからなくなったパスワードの消去』を参照してください。

## 付録A. 電池の交換

この付録には、コンピューターの電池の取扱いと交換に関する情報が記載されています。システム・ボードのソケットに取り付けられているリチウム電池は、リアル・タイム・クロックおよび CMOS メモリーに電力を供給しています。電池が消耗し始めると、電圧が下がります。電圧が一定値以下に下がると、CMOS メモリーに格納されているシステム設定値 (たとえば、日付や時刻など) に誤りが生じる場合があります。電池に不具合が生じる場合は、同等な電池と交換してください。

### ⚠ 危険

交換用電池に取り扱い上の注意や取り付けの指示が書かれていれば、それに従う。

電池を正しく交換しないと、破壊する危険があります。

電池にはリチウムが含まれており、正しい方法で使用、取り扱い、または廃棄しないと発熱、発火、破裂のおそれがあります。

電池の交換には、IBM部品番号33F8354の電池、またはメーカー推奨の同等の電池を使用してください。次の行為は絶対にしないでください。

- 水にぬらすこと
- 100°C以上の過熱や焼却
- 分解や充電
- ショート

電池を廃棄する場合、および保存する場合にはテープなどで絶縁してください。他の金属や電池と混ざると発火、破裂の原因となります。

電池は地方自治体の条例、または規則に従って廃棄してください。ごみ廃棄場で処分されるごみの中に捨てないでください。

交換用電池の購入については、お買い求めの販売店および弊社の営業担当員までお問い合わせください。

本体、プリンターなどの装置の電源を切る。

電源コードおよび外部ケーブルをすべて切り離してから、コンピューター・カバーを取り外す (詳細は、5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。

作業を始める前に

vページの『安全に正しくお使いいただくために』および4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

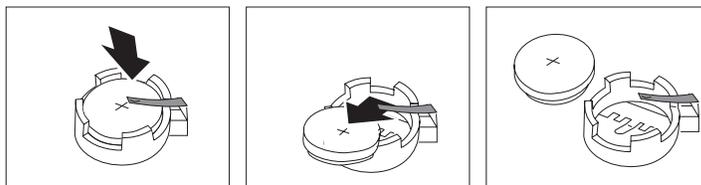
交換用電池に付属の資料をお読みください。

本体およびすべての接続されている装置の電源をオフにしてください。

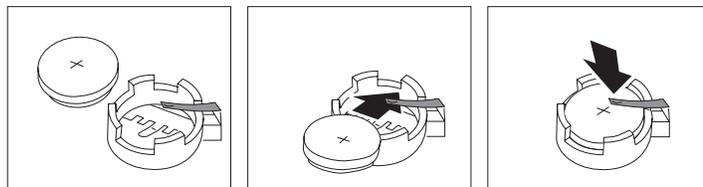
コンピューターに接続されているすべての外部ケーブルを取り外し、コンピューターカバーを取り外してください（補足情報については、5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照してください）。

電池の場所については、11ページの『システム・ボード上のパーツの識別』を参照してください。

- 1 必要に応じて、電池を扱うのに邪魔になるアダプターまたはケーブルがあれば取り外します。手順については、35ページの『アダプターの取外し』を参照してください。
- 2 vページの『安全に正しくお使いいただくために』に目を通します。
- 3 古いバッテリーを取り外します。



#### 4 新しいバッテリーを入れます。



注： 電池の交換後本体の電源を初めてオンにしたときは、エラー・メッセージが表示される場合があります。これは、電池の交換後では問題ありません。

#### 次の手順

別のオプションの作業を行う場合は、該当する項に進みます。

交換を完了するためには、62ページの第6章、『取付けの完了』に進みます。

装置構成ユーティリティープログラムを使用して、日付と時刻ならびにパスワードを設定します。日付と時刻の設定に関しては、*ユーザーズ・ガイド*を参照してください。パスワードの設定に関しては、71ページの『パスワードの設定』を参照してください。

古い電池を、地域の条例や規制に準じて廃棄します。

## 付録B. 割り込みリソースと DMA リソース

この付録には、本製品の省略時の割り込みリソースおよびダイレクト・メモリー・アクセス (DMA) リソースをリストしています。

注: 割り込みおよび DMA の設定値は、構成制御のもとで変更することができます。

割り込み要求	システム・リソース
0	タイマー
1	キーボード
2	インターラプト・コントローラー
3 <sup>2</sup>	シリアル・ポート 2 または赤外線
4 <sup>2</sup>	シリアル・ポート
5 <sup>2</sup>	音声
6	ディスケット
7 <sup>2</sup>	パラレル・ポート
8	リアルタイム・クロック
9	使用可
10	使用可
11	使用可
12 <sup>2</sup>	マウス
13	数値演算コプロセッサ
14	取り付けられている場合は、1 次 IDE ドライブ
15	取り付けられている場合は、2 次 IDE ドライブ

DMA 要求	データ幅	システム・リソース
0	8 ビット	使用可
1	8 ビット	使用可
2	8 ビット	ディスケット
3 <sup>2</sup>	8 ビット	パラレル・ポート
4	-	使用可
5	16 ビット	使用可
6	16 ビット	使用可
7	16 ビット	使用可

<sup>2</sup> 設定値を変更するよう修正したり、使用不可にしたりできます。



## 索引

日本語、英字、数字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

### 〔ア行〕

- アダプター
  - エラー・メッセージ 65
  - 構成 69
  - 従来型 27
  - スロット 25
  - タイプ 26
  - 取付け 28
  - 取外し 35
  - プラグ・アンド・プレイ 26
  - リソースの競合 26, 27, 65
- アダプター用拡張スロット 25
- アップグレード
  - ビデオ・メモリー 17
  - マイクロプロセッサ 19
  - マルチメディア 17
  - メモリー・モジュール 12
- 安全
  - 手順と指針 1
  - 電池の取扱い 72
  - information v
- 安全上の注意、電池 72
- 位置決め
  - アダプター 25
  - 拡張スロット 25
  - システム・ボード構成部品 11
  - ドライブ・ベイ 37
  - 内部構成部品 8
- インターネット・ホーム・ページ 2
- エラー・メッセージ、リソースの競合 26, 65
- オプション
  - アダプター 26
  - インターネット・ホーム・ページ 2
  - 機密保護 57

- オプション (続き)
  - 使用可能な 2
  - 説明 1
  - 内蔵ドライブ 37, 38
  - ビデオ・メモリー 17
  - マイクロプロセッサ 19
  - メモリー・モジュール 12

### 〔カ行〕

- 回転、ドライブ・ケージの 43, 51
- 書込み禁止スイッチ、の設定 61
- カバー
  - 解放止め金 7
  - サイドの取外し 30
  - 再取付け 63
  - 再取付け、サイド 34
  - 取外し 5, 42
  - ロック 6, 63
- キーボード・ポート 9
- 基本 PCI スロット 25
- 機密保護オプション 57
- 切替え設定
  - システム・ボード上の位置 11
  - ディスク書き込み禁止スイッチ 61
- ケーブル
  - 接続 64
  - 取外し 5
  - 内蔵ドライブのタイプ 39
  - IDE 39
- 交換
  - カバー 63
  - サイド・カバー 34
  - 電池 72
  - マイクロプロセッサ 19
- 交換用電池、の注文 72
- 構成
  - アダプター 26, 65
  - 競合の解決 65

構成 ( 続き )  
情報の消去 58  
装置、の更新 65  
メモリー・モジュール 13  
構成部品、内部の位置 8  
構成/セットアップ・ユーティリティー  
開始 66  
始動装置 70  
従来型の ISA リソース 26, 65  
終了 68  
使用法 65  
設定の変更 68  
メイン・メニュー 67  
目的 65  
リソースの競合 26, 65  
固定ディスク・ドライブ 37, 38  
コネクタ  
システム・ボード上の 11  
入出力 9

## 〔サ行〕

サイド  
カバー取外し 30  
カバーの再取付け 34  
システム・ボード  
オプション 10  
構成部品 2  
図 11  
説明 11  
パーツの識別 11  
ラッチ 31  
レイアウト 11  
システム・ボード・パーツの識別 11  
システム・メモリー  
増設 12  
目的 12  
DIMM の取付け 14  
DIMM の取外し 16  
始動装置、構成 70

シャシー侵入検出スイッチ 7, 8  
ジャンパー  
システム・ボード上の位置 11  
CMOS クリアー 58, 71  
従来型アダプター 27, 69  
従来型の ISA リソース 26, 65  
商標 76  
シリアル・ポート 9  
シリアル・ポート・リング検出、ハードウェア  
2  
スロット  
アダプター 28  
拡張 25, 28  
静電気の影響を受けやすい装置、取扱い 4  
赤外線ポート 9  
接続  
ケーブル、外部 64  
内蔵ドライブ 39  
内蔵ドライブ、ベイ 1、2、および 3 51  
入出力装置 9  
設定、パスワード 71  
増設  
アダプター 28  
内蔵ドライブ 41, 45  
内蔵ドライブ、ベイ 4 55  
メモリー・モジュール (DIMM) 14  
装置  
始動 70  
静電気の影響を受けやすいものの取扱い 4  
装置構成情報の更新 65

## 〔タ行〕

ダイレクト・メモリー・アクセス (DMA) リソース 75  
注意  
静電気の影響を受けやすい装置の取扱い 4  
電池の取扱い 72  
テープ・ドライブ 37, 38  
ディスク・ドライブ、ハード 37, 38

ディスク書き込み禁止スイッチ 61  
ディスク・ドライブ 37, 38  
ディスク・ドライブ・コネクタ、位置 11  
デバイス・ドライバー 65  
電圧レギュレーター・モジュール (VRM)、の位置 11  
電源コード  
コネクタ (内部)、位置 11  
接続 64  
取外し 5  
内蔵ドライブ 39  
電池  
安全上の注意 72  
交換 72  
交換用電池の注文 72  
システム・ボード上の位置 11  
取扱い上の注意 72  
廃棄 72  
電池の廃棄 72  
電話線  
接続 64  
取外し 5  
特記事項 76  
ドライブ  
ケーブル 39  
仕様 38  
ベイ 37  
参照：内蔵ドライブ  
ドライブ・サポート・ブラケット  
ドライブ-取付金具部  
取扱い方法  
静電気の影響を受けやすい装置 4  
電池 72  
取付け  
アダプター 28  
オプション 2  
概要 1  
カバー 63  
静電気の影響を受けやすい装置 4  
電池 74  
内蔵ドライブ、ベイ 1、2、および 3 41, 45  
内蔵ドライブ、ベイ 4 55

取付け (続き)  
ビデオ・メモリー 17  
ベイ・パネル 50  
マイクロプロセッサ・アップグレード 19  
マルチメディア 17  
メモリー・モジュール (DIMM) 14  
取付け準備 5  
取付けの完了 62  
取外し  
アダプター 35  
カバー 7  
管理者パスワード 58  
ケーブル、外付け 5  
サイド・カバー 30  
始動パスワード 58  
電池 74  
内蔵ドライブ、ベイ 1、2、および 3 からの 41, 48  
内蔵ドライブ、ベイ 4 から 53  
ベイ・パネル 47  
マイクロプロセッサ 19  
メモリー・モジュール (DIMM) 16

## 〔ナ行〕

内蔵ドライブ  
オプション 37, 38  
ケーブル 39  
説明 37  
タイプ 37, 38  
高さ制限 24  
高さの要件 38  
取付け、ベイ 1、2、および 3 41, 45  
取付け、ベイ 4 55  
取外し、ベイ 1、2、および 3 からの 41, 48  
取外し、ベイ 4 から 53  
ベイ 37, 38  
内蔵ドライブ用の信号ケーブル 39

## 〔ハ行〕

ハード・ディスク・ドライブ 37, 38  
パスワード  
  除去 58  
  設定 71  
パラレル・ポート 9  
ピクチャー・フレーム  
  ベゼル 50  
必要なツール 3  
ビデオ  
  マルチメディア 17  
  マルチメディア・ポート 9  
  メモリー 17  
プラグ・アンド・プレイ  
  アダプター 26  
プレーナー  
  参照：システム・ボード  
フロア・スタンド  
プロセッサ  
  参照：マイクロプロセッサ  
ベイ、ドライブ 37  
ベイ・パネル  
  取付け 50  
  取外し 47  
ベゼル  
  額縁型 50  
  取付け 50  
変換キット、ドライブ・ケージ 38, 43  
ポート 6, 64  
ホーム・ページ、IBM パーソナル・コンピューター 2

## 〔マ行〕

マイクロプロセッサ  
  アップグレード 19  
  交換 19  
  システム・ボード上の位置 11  
マウス・ポート 9  
マザーボード  
  参照：システム・ボード

メモリー

  参照：システム・メモリー  
メモリー・モジュール  
  構成 13  
  システム・ボード位置 11  
  タイプ 12  
  取付け 14  
  取外し 16  
モデム・リング検出、ハードウェア 2  
モニター・コネクター 9

## 〔ヤ行〕

ユーティリティ・プログラム、のセットアップ  
65

## 〔ラ行〕

ライザー・カード  
  拡張スロット 25  
  システム・ボード上の位置 11  
  図 25  
  ISA スロット 25  
  PCI スロット 25  
ラッチ、システム・ボード 11, 31  
リソースの競合 24, 65  
リソースの競合、エラー・メッセージ 26  
リボン・ケーブル 39  
ロック、カバー 6, 63

## 〔ワ行〕

ワールド・ワイド・ウェブ (WWW) ホーム・ページ 2  
わからなくなった始動パスワード、の除去 58  
割込みリソース 75

## C

CD-ROM ドライブ 8, 37, 38  
CMOS のクリアー 58

## **D**

DIMM

参照：メモリー・モジュール

DMA (ダイレクト・メモリー・アクセス) リソース 75

## **I**

IDE 装置

接続 39

1 次コネクタ 11

2 次コネクタ 11

ISA スロット 25

## **P**

PCI スロット 25

## **U**

USB ポート 9

## **W**

Wake on LAN、ハードウェア 2

Printed in Japan

**日本アイビーエム株式会社**

東京都港区六本木 3-2-12 〒106  
TEL (03) 3586-1111



SA88-5934-